



日本生物学的精神医学会総会

The 45th Annual Meeting of the Japanese Society of Biological Psychiatry (JSBP)



不思議の国?
精神医学は魅力だらけだ。

プログラム集

2023.

11月6日(mon) ~ 7日(tue)

万国津梁館

〒905-0026 沖縄県名護市喜瀬1792番地

分子から量子まで
ゴルディアスの結び目を解き放て

大会長

藤田医科大学医学部 岩田仲生
精神神経科学

$$i\hbar \frac{\partial}{\partial t} \psi(x,t) = \left\{ -\frac{\hbar^2}{2m} \frac{d^2}{dx^2} + V(x,t) \right\} \psi(x,t)$$



第45回日本生物学的精神医学会年会

テーマ：分子から量子まで
- ゴルディアスの結び目を解き放て -

プログラム集

大会長

岩田 仲生（藤田医科大学 医学部 精神神経科学 教授）

会期

2023年11月6日（月）～ 7日（火）

事務局（主催）

藤田医科大学 医学部 精神神経科学

〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98

TEL：0562-93-9250

お問い合わせ先

第45回日本生物学的精神医学会年会 運営事務局

（株式会社沖縄コングレ内）

〒900-0015 那覇市久茂地3-1-1 日本生命那覇ビル

TEL：098-869-4220 FAX：098-869-4252

E-mail：okinawa-jsbp2023@okicongre.jp

開催概要

名 称	第45回日本生物学的精神医学会年会
テ ー マ	分子から量子まで - ゴルディアスの結び目を解き放て -
大 会 長	岩田 仲生 (藤田医科大学 医学部 精神神経科学 教授)
会 期	2023年11月6日 (月) ~ 7日 (火)
事務局 (主催)	藤田医科大学 医学部 精神神経科学 〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98 TEL : 0562-93-9250
お問い合わせ先	第45回日本生物学的精神医学会年会 運営事務局 (株式会社沖縄コングレ内) 〒900-0015 那覇市久茂地3-1-1 日本生命那覇ビル TEL : 098-869-4220 FAX : 098-869-4252 E-mail : okinawa-jsbp2023@okicongre.jp

目 次

開催概要

目 次	1
会長挨拶	2
委員名簿	3
日 程 表	4
交通および会場の案内	7
フロアマップ	8
年会参加者へのご案内	9
発表・進行についてのご案内	12
単位取得について	14
若手研究者育成プログラム	15
令和5年度若手研究者育成プログラム交流会	16
次回大会情報	16
2022年度（第31回）日本生物学的的精神医学会学術賞・ 2022年度国際学会発表奨励賞	17
プログラム	
プレジデンシャルシンポジウム	21
シンポジウム	22
共催セミナー	34
一般演題（ポスター）	37
学会資料集	
日本生物学的的精神医学会 年会一覧	49
役員一覧	50
会 則	51
協賛団体一覧	57

会長挨拶

第45回日本生物学的精神医学会年会

大会長 岩田 仲生

藤田医科大学 医学部 精神神経科学 教授



このたび、第45回日本生物学的精神医学会年会を2023年11月6日～7日の2日間、沖縄の万国津梁館において開催させて頂くこととなりました。ここ数年本学会年会は他学会との合同開催が続いていましたが、改めて本学会が単独で存立する意義を再確認することも含めて敢えて単独、しかも日本の最南端の沖縄での開催とさせて頂きました。生物学的精神医学というキーワードで真に活動している方々が集い大いに語り合う、そういう場をアフターコロナ時代の学会として原則現地配信なしで行う計画としています。

本学会のテーマは「分子から量子まで～ゴルディアスの結び目を解き放て」とさせて頂きました。“ゴルディアスの結び目”は西欧圏でない我々には少々不案内ではありますが、何百年も解決が求められできなかった難問を思いもよらぬ方法で解き明かす、という喩えとして使わせていただきました。言うまでも無く精神医学が対峙している難問、病態生理から診断、予防から治療、ほぼ全てがゴルディアスの結び目の如く解き明かされてはいません。この難問に真っ向から挑戦し新たな、あるいは今まで思いつかなかった画期的なアプローチで切り開けないかな、という願いが込められています。

生物学的精神医学は21世紀に入り大きな進展を遂げています。特にゲノム解析と画像解析がその両輪として様々な知見を生み出してきています。分子から人へ、そのステップを緻密に積み上げていく作業、しかも膨大な多因子の集積でありその複雑性は現状の認識論ではまだ太刀打ちできないのかもしれないかもしれません。もう一つのテーマの「分子から量子まで」は必ずしも量子精神医学が進展を遂げているという意味ではなく、量子レベルから生物を見る学問がかなり進展しており、改めて精神や人の行動の原理を探るのに何かしらのクロストークを始めては、ということを取り上げさせて頂きました。難問を思いもよらぬアイデアで、つまり量子レベルからみるとあっさり解けてしまうとは考えていませんが、数世紀に亘り精神医学研究者が取り組んできた難題を解決するにはありとあらゆる科学を総動員しなければという思いです。

年会では次世代を担う若手研究者の育成を得に重視しSocietyとして全国の研究者が集い語ることのできる場をつくることを苦心していきます。万国津梁館周辺には素晴らしい海と自然はありますが都会で行われる学会とは違い近隣に飲食店はありません。学会参加者にはできれば前日の夜から現地入り頂きプログラム時間以外の交流も十分行えるよう準備していきます。

是非とも志のある皆様に沖縄の地でお会いできることを心から祈念しております。

委員名簿

【大会長】 岩田 仲生（藤田医科大学精神神経科学）

【事務局長】 齋藤 竹生（藤田医科大学精神神経科学）

【プログラム委員】 （50音順 敬称略）

委員長 池田 匡志（名古屋大学大学院医学系研究科精神医学）

副委員長 疋田 貴俊（大阪大学蛋白質研究所）

加藤 隆弘（九州大学大学院医学研究院精神病態医学）

紀本 創兵（和歌山県立医科大学神経精神医学教室）

小池 進介（東京大学大学院総合文化研究科進化認知科学研究センター）

沼田 周助（徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野）

林 朗子（理化学研究所・脳神経科学研究センター・多階層精神疾患研究チーム）

平野 羊嗣（宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野）

牧之段 学（奈良県立医科大学精神医学講座）

日 程 表

0日目：11月5日（日）

万国津梁館				
第1会場 サミットホール (1/2)	第2会場 オーシャンホール A	第3会場 オーシャンホール B	第4会場 オーシャンホール C	ポスター サミットホール (1/2)
8:50				
9:00				
10:00				
11:00				
12:00				
13:00				
14:00				
15:00				
16:00	若手研究者育成プログラム交流会 16:00～18:00		理事会 15:30～17:00	
17:00				
18:00				
19:00	会長招宴 18:00～20:00			
20:00				

1日目：11月6日（月）

万国津梁館				
第1会場 サミットホール (1/2)	第2会場 オーシャンホール A	第3会場 オーシャンホール B	第4会場 オーシャンホール C	ポスター サミットホール(1/2)
8:50				
9:00				
9:00 ~ 12:00				
【開会の辞】				
9:00 ~ 9:05				
【プログラム趣旨】				
9:05 ~ 10:30				
【プログレスレポートⅠ】				
10:00				
10:40 ~ 11:50				
【プログレスレポートⅡ】				
11:00				
11:50 ~ 12:00				
【プログレスレポート】 ライトニングトーク				
12:00				
				ポスター閲覧
12:10 ~ 13:00				
ランチョンセミナー 1				
座長：中川 伸 演者：馬場 元 武田薬品工業株式会社 / ルンドベック・ジャパン株式会社				
12:10 ~ 13:00				
ランチョンセミナー 2				
座長：伊豫 雅臣 演者：功刀 浩 Meiji Seika ファルマ株式会社				
12:10 ~ 13:00				
ランチョンセミナー 3				
座長：岩田 正明 演者：加藤 隆弘 大塚製薬株式会社 メディカルアフェアーズ部				
12:10 ~ 13:20				
将来計画委員会 (最優秀奨励賞選考)				
13:00				
14:00				
13:30 ~ 15:10				
若手研究者育成プログラム 後半				
最優秀奨励賞受賞者 受賞講演				
13:30 ~ 14:00				
若手研究者育成プログラム 奨励賞受賞者発表				
14:00 ~ 15:10				
15:00				
16:00				
15:30 ~ 17:30				
プレジデンシャル シンポジウム				
量子生命科学による 精神神経疾患のメカニズム 解明に向けた挑戦				
座長：岩田 伸生 須原 哲也 演者：須原 哲也 五十嵐 龍治 高草木 洋一 八幡 憲明 村上 正晃 田桑 弘之 高堂 裕平 山田 真希子				
17:00				
18:00				
17:45 ~ 18:35				
イブニングセミナー 1				
座長：伊賀 淳一 演者：牧之段 学 住友ファーマ株式会社				
17:45 ~ 18:35				
イブニングセミナー 2				
座長：功刀 浩 演者：岩田 正明 Meiji Seika ファルマ株式会社				
17:45 ~ 18:35				
イブニングセミナー 3				
座長：山末 英典 演者：高江洲 義和 MSD 株式会社				
19:00				
				ポスター発表 18:45 ~ 20:00
20:00				

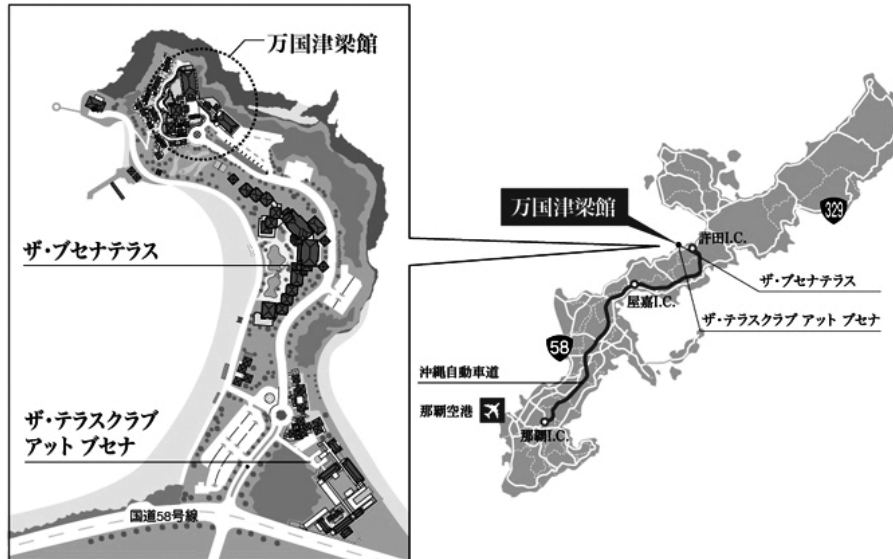
2日目：11月7日（火）

万国津梁館				
第1会場 サミットホール (1/2)	第2会場 オーシャンホール A	第3会場 オーシャンホール B	第4会場 オーシャンホール C	ポスター サミットホール (1/2)
8:30	モーニングセミナー 1 8:30～9:20 座長：池田 匡志 演者：高江洲 義和 武田薬品工業株式会社 / ルンドベック・ジャパン株式会社	モーニングセミナー 2 8:30～9:20 座長：川崎 康弘 演者：住吉 太幹 日本ペーリンガーインゲルハイム株式会社 医療開発本部		ポスター閲覧
9:00				
10:00	シンポジウム 3 9:30～11:30 単一モダリティの 大規模データを起点とした 階層性データベース構築の 意義 座長：池田 匡志 小原 知之 演者：小池 進介 平野 羊嗣 大井 高 岩本 和也 牧之段 学	シンポジウム 4 9:30～11:30 ひきこもりを生物学的に 理解する ：臨床・基礎・理論の融合 座長：加藤 隆弘 正田 貴俊 演者：加藤 隆弘 瀬戸山 大樹 正田 貴俊 本田 直樹	シンポジウム 5 9:30～11:30 気分障害のMRI 研究から わかる、 寛解と回復に関連した 神経回路基盤 座長：三村 将 中込 和幸 演者：平野 仁一 野田 隆政 久良木 悠介 片山 奈理子	シンポジウム 6 9:30～11:30 いわゆる老年期精神病的 生物学的背景を考察する 座長：入谷 修司 池田 研一 演者：入谷 修司 笠貫 浩史 関口 裕孝 藤城 弘樹 河上 隆緒 橋本 衛 荒深 周生
11:00				
12:00	評議員会・総会 11:30～12:30			
13:00	ランチョンセミナー 4 12:40～13:30 座長：岩田 仲生 演者：池田 匡志 住友ファーマ株式会社	ランチョンセミナー 5 12:40～13:30 座長：伊賀 淳一 演者：菊地 俊暁 武田薬品工業株式会社 / ルンドベック・ジャパン株式会社	ランチョンセミナー 6 12:40～13:30 座長：加藤 忠史 演者：加藤 隆弘 ヴィアトリス製薬株式会社 / 住友ファーマ株式会社	ランチョンセミナー 7 12:40～13:30 座長：近藤 毅 演者：平安 良雄 ヤンセンファーマ株式会社
14:00	シンポジウム 7 13:40～15:40 Beyond Hypothesis in Psychiatry: 仮説からの脱却のために 我々ができること 座長：加藤 忠史 平野 羊嗣 演者：朴 秀賢 塩飽 裕紀 石田 康 柳下 祥	シンポジウム 8 13:40～15:40 精神疾患のゲノム研究の 現在と展望 座長：齋藤 竹生 池田 匡志 演者：木村 大樹 池田 匡志 池亀 天平 齋藤 竹生	シンポジウム 9 13:40～15:40 セロトニントランスポーター 再訪 座長：岩本 和也 宮川 剛 演者：昌子 浩孝 小林 克典 岩本 和也 酒井 規雄 山末 英典	シンポジウム 10 13:40～15:40 うつ病, その病態の複雑系 :overlap/difference/ interaction 座長：吉村 玲児 功刀 浩 演者：吉村 玲児 功刀 浩 加藤 隆弘 小林 伸行
15:00				
16:00	シンポジウム 11 15:40～17:40 COVID-19 関連認知機能 障害を含む 新しいタイプの認知機能障害 —新しいタイプの 認知機能障害と その病態生理仮説— 座長：谷向 仁 小川 朝生 演者：井上 真一郎 高橋 晶 小川 朝生 谷向 仁	シンポジウム 12 15:40～17:40 ニューロモデュレーションの 最前線 座長：西田 圭一郎 高橋 隼 演者：朴 秀賢 今津 伸一 山田 悠至 千葉 俊周		
17:00	閉会の辞			
18:00				
19:00				



交通および会場の案内

会場・交通のご案内

万国津梁館 〒905-0026 沖縄県名護市喜瀬1792番地
<https://www.shinryokan.com/index.jsp>



交通のご案内

那覇空港 ✈	バスで 	万国津梁館 ザ・ブセナテラス
	● 路線バス 系統番号120番 「ブセナリゾート前」 バス停下車 徒歩約20分	
	● 空港リムジンバス (CDエリア・Dエリア) 「ザ・ブセナテラス」下車 徒歩3分	
	タクシー・自動車 	
	● 距離：約60km 料金：16,000円前後 (高速料金別途)	
	● 沖縄自動車道利用の場合：約75分 / 一般道のみ：90分	

レンタカーについて

本年会開催地である沖縄はリゾート観光地として多くの観光客の方がいらっしゃいます。レンタカーの数には限りがありますので、早めの予約をお願いします。

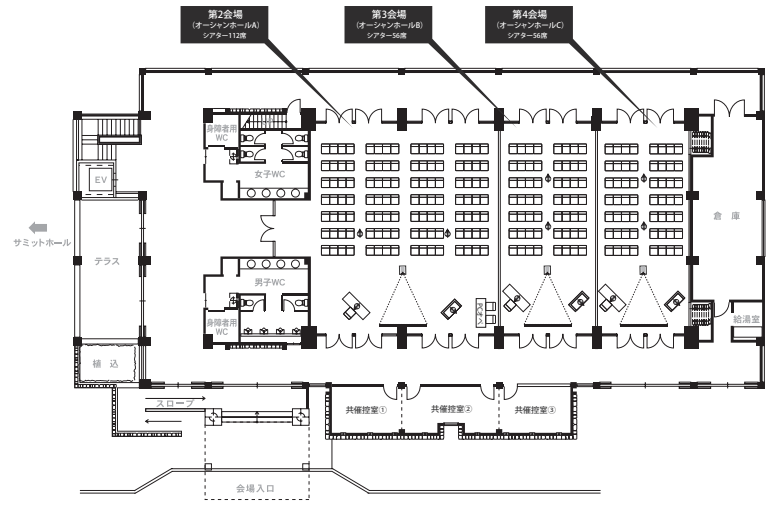
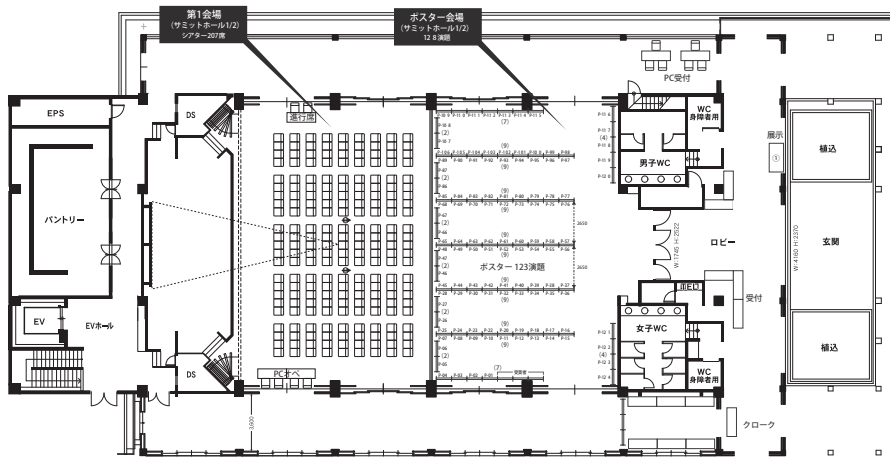
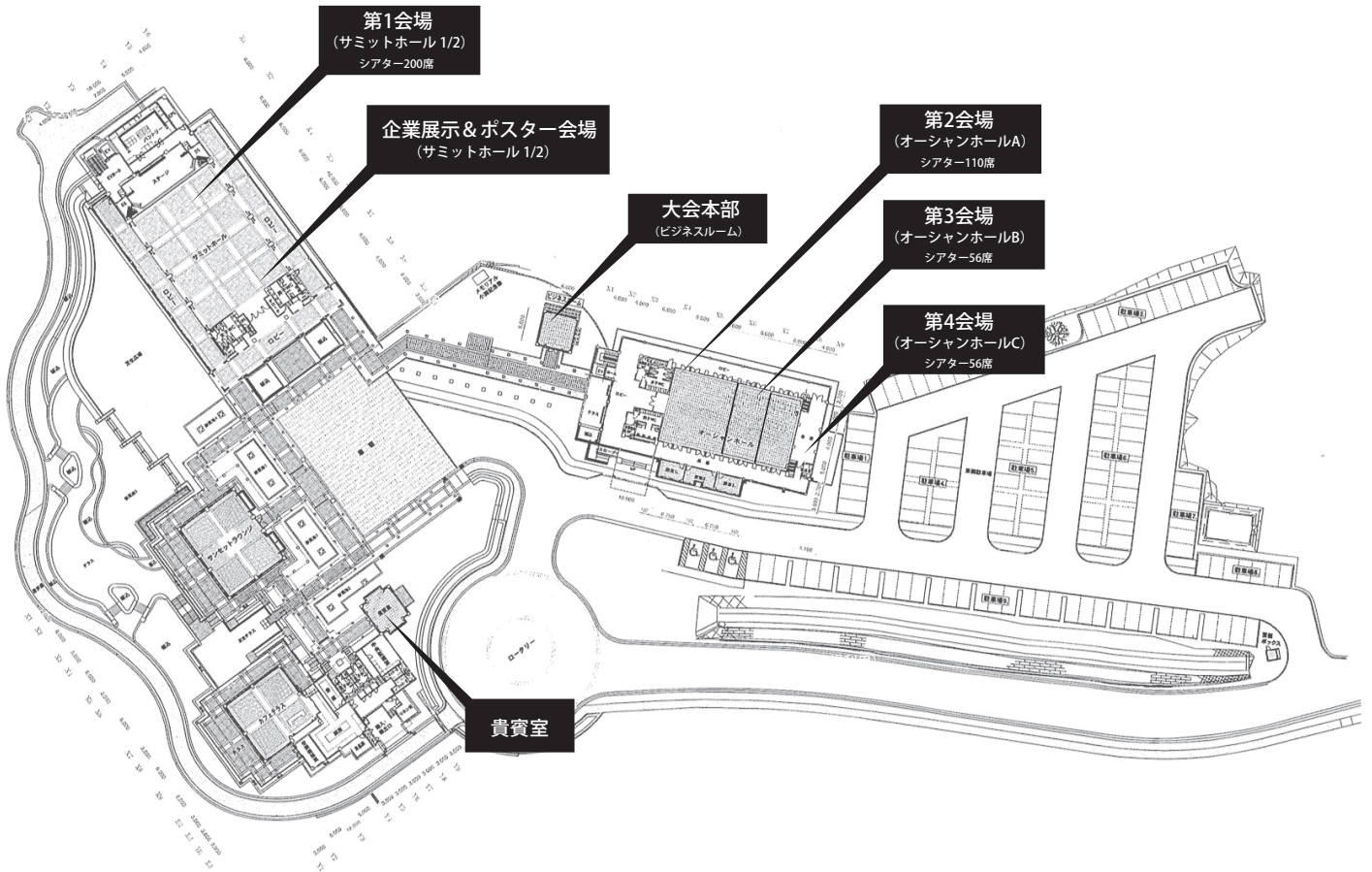
リムジンバスについて

会場まではリムジンバスが運行していますので、是非ご利用ください。
リムジンバスチケットは沖縄バス株式会社の「発車オーライネット」より予約購入が出来ますので、下記のURLより予約購入をお願いします。

<https://onl.tw/FRHfQtS>

なお、リムジンバスチケットの販売開始は1か月前の5：00からとなっています。
早めの予約購入をおすすめします。

フロアマップ



年会参加者へのご案内

参加者へのご案内

開催について

現地開催

オンライン・オンデマンド配信はございません。

参加登録について

オンライン参加登録のみと限らせていただきます。

会期中（11月6日(月)・7日(火)）は会場で金銭を取り扱っての受付は行いません。予めご了承ください。

※ご事情によりオンライン参加登録が難しい場合は、当日総合受付までご相談ください。

参加登録は当日も受付をしております。

参加登録のご案内

本年会の参加にはオンライン参加登録が必須となります。

会期中の金銭を取り扱っての受付は行いません。

以下参加登録ページより登録をお願いいたします。

<https://va.apollon.nta.co.jp/okinawa-jsbp2023/>



ホテル、レンタカーについて

参加登録サイトからも申し込むことが可能です。

【ホテルプラン】

申込締切日：2023年10月4日(水)

支払締切日：2023年10月11日(水)15:00

ザ・ブセナテラス(会場に隣接しており那覇空港より車で約90分)

ベストウェスタン沖縄幸喜ビーチ(万国津梁館まで車で約6分那覇空港より車で約70分)

沖縄かりゆしビーチリゾート・オーシャンスパ(万国津梁館まで車で約5分那覇空港より車で約75分)

かねひで喜瀬ビーチパレス(万国津梁館まで車で約5分那覇空港より車で約75分)

KARIYUSHI LCH.RESORT on The Beach(万国津梁館まで車で約5分那覇空港より車で約75分)

【レンタカープラン】●11/5 ～ 48時間 ●11/5 ～ 72時間

申込み締切日：2023年11月1日(水)12:00

ホテル、レンタカーの数には限りがありますので、早めの予約をお願いします。

受付・クローク

開設場所：万国津梁館 サミットホール ロビー

開設時間：11月6日(月) 8:00～20:00

11月7日(火) 8:00～18:30

参加登録期間

事前参加登録

登録期間：2023年4月9日（日）～ 2023年10月29日（日）

当日参加登録

登録期間：2023年10月30日（月）～ 2023年11月7日（火）

※クレジットカード払いのみとなります

参加登録費

参加登録期間：4月9日（日）～ 10月29日（日）

参加区分	参加登録費
会 員	8,000円
非 会 員	20,000円
大学院生、研修医(卒業後6年以内)	3,000円
学 部 学 生	無 料
企業(製薬会社)	25,000円

当日参加登録受付：10月30日（月）～ 11月7日（火）

参加区分	参加登録費
会 員	10,000円
非 会 員	23,000円
大学院生、研修医(卒業後6年以内)	3,000円
学 部 学 生	無 料
企業(製薬会社)	30,000円

注意事項

参加登録期間内で料金の支払いがなければ、当日参加登録費での登録になります。

大学院生は学生証を、研修医の方は証明書のアップロードをお願いいたします。

学部学生の方は、学生証のアップロードをお願いいたします。

お支払いについて

参加登録費のお支払いは、クレジットカード決済・銀行振り込み・コンビニ支払いのいずれかにてお願いいたします。

パスワードは登録した内容を確認・修正する際に必要になります。大切に保管してください。

参加登録費について

自然災害などにより開催形式が変更になることがあります。

事前参加費については、大変申し訳ありませんが、返却いたしません。

また、参加者が個別に予約した旅費・宿泊費等のキャンセル料金についても参加者の負担でお願いいたします。

参加登録入金後に会員区分が変更になった場合でも差額の返金はいたしませんので、予めご了承くださいませようをお願いいたします。

参加登録についてのお問い合わせ

参加登録に関して不明な点がある場合には、第45回日本生物学的精神医学会年会 運営事務局までお問い合わせください。

お問い合わせ先

第45回日本生物学的精神医学会年会 運営事務局

株式会社沖縄コングレ

TEL：098-987-6817

E-mail：okinawa-jsbp2023@okicongre.jp

学会入会

入会案内

入会申込手続について

- ・ ご入会を希望される方は、評議員による推薦を担保した上で、下部掲載、学会webサイトの「オンライン入会申込フォーム」よりお申込み下さい。
- ・ 本学会への入会には評議員による推薦が必須です。入会申込の際は推薦者となる評議員の「氏名・会員番号・メールアドレス」が必要となりますので、予めご用意下さい。
※もし、推薦者が見つからない等ございましたら履歴書・業績一覧（本学会に関連する研究等について）をメール(maf-jsbp@mynavi.jp)にてお送り頂けますようお願い申し上げます。
提出書類をもとに、入会の可否の審議をいたしますので、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。
- ・ オンラインでの入会申込から原則として1週間以内に、推薦評議員より会員システムから推薦処理が完了して下さるようお願い申し上げます。
- ・ 本学会の会計年度は1月1日～12月31日です。
- ・ 学生会員としてのご入会をご希望の方は、入会申込と同時に、学生証あるいは在籍証明書のデータをオンラインフォーム上でアップロードしてください。
- ・ 若手会員としてのご入会をご希望の方は、入会申込と同時に、学部卒業後5年以内であることを証明する書類（医師免許証などでも可）のデータをオンラインフォーム上でアップロードしてください。
- ・ 関連資料送付の如何に関わらず、評議員からの推薦メールが届かない限り入会申込は承認されませんのでご留意下さい。
- ・ 生物学的精神医学会世界連合（WFSBP）にご入会希望の方は「+WFSBP」のついた会員種別を選択して下さい。

日本生物学的精神医学会：<https://www.jsbp.org/index.html>



入会初年度の年会費と機関誌について

学生・若手会員の年会費は、初年度無料です。

年会費一覧

正会員年会費	10,000円
学生・若手会員年会費	5,000円※初年度会費無料
評議員年会費	11,000円
WFSBP年会費	1,000円

ご登録いただいた情報は、本学会の事業目的に沿っておこなうサービスの提供、会員名簿の作成、調査研究および過去に集められた個人情報を更新する場合に限り使用します。

発表・進行についてのご案内

司会・発表者へのご案内

COI (利益相反) に関する開示について

全てのセッションのご発表時に、必ず規定のCOIに関するスライド（またはポスター）を掲示してください。

※COI開示スライドは公式webサイトの一般演題募集 (<https://www.okinawa-congre.co.jp/jsbp2023/cfa.html>) を参照してください。

【指定演題/一般演題】	【指定演題/一般演題】
スライド (開示すべき情報がない場合)	スライド (開示すべき情報がある場合)
演題名: □□□□□□□□□□□□□□□□	演題名: □□□□□□□□□□□□□□□□
○筆頭演者名 共著者名 所属名	○筆頭演者名 共著者名 所属名
第45回日本生物学的精神医学会年会 筆頭発表者のCOI開示	第45回日本生物学的精神医学会年会 筆頭発表者のCOI開示
演題発表に関連し、 開示すべきCOI関係にある企業等はありません。	演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業等 ①顧問: ○○製薬 ②株保有・利益: ○○製薬 ③特許使用料: ○○製薬 ④講演料: ○○製薬 ⑤原稿料: ○○製薬 ⑥受託研究・共同研究費: ○○製薬 ⑦奨学寄付金: ○○製薬 ⑧寄付講座所属: あり(○○製薬) ⑨贈答品などの報酬: あり(○○製薬)

発表データについて

【PowerPointスライド作成の注意点】

スライドサイズ : 16:9

フォント : 日本語 (MSゴシック、MSPゴシック、MS明朝、MSP明朝)
段落のずれ、文字化け、文字が表示されない等のトラブルが起こる可能性があります。

動画ファイル形式: wmv・mp4 (PowerPoint とのリンク状態を保つため、使用動画データも同じフォルダと一緒に保存してください。)
※Windows Media Player で再生致します。その他の形式では再生できませんのでご注意ください。

会場PC仕様 : OS Windows10 /
ソフト Office365 (Windows版)
会場には上記仕様のノートPCをご用意いたします。

PC受付

【PC受付場所】

サミットホールロビーの総合受付から右通路奥

【PC受付時間】

開設時間: 11月6日(月) 8:00 ~ 17:30

11月7日(火) 8:00 ~ 17:30(モーニングセミナーのみ7:30から受付いたします)

1. 学会受付後、発表の30分前までにサミットホール内（発表会場外の廊下）のPC受付までお越しください。
2. 発表データを保存したUSBフラッシュメモリまたはPC本体をPC受付までご持参ください。
3. 発表セッション開始の30分前までにPC受付にて試写を完了させてください。
4. PCをお持ち込みの方
PC受付後、発表セッション開始20分前までに、発表会場内（左前方）のPCオペレーター卓にてPC本体をご提出いただき機材の接続を行ってください。

【USBメモリにて発表データを持ち込みの方へ (Windows)】

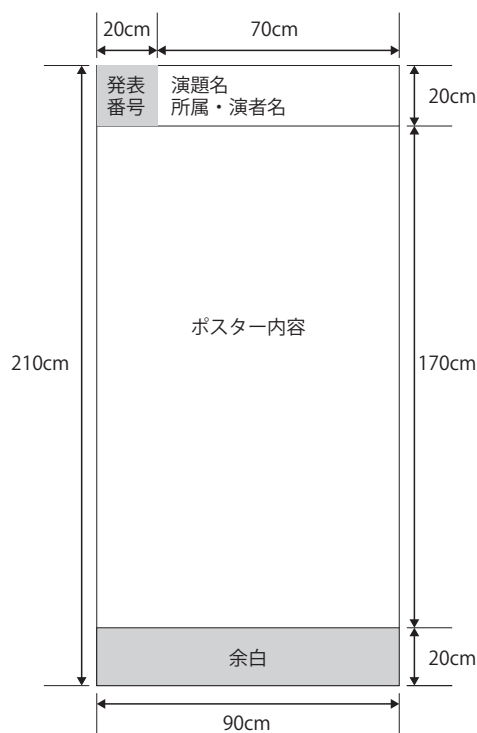
- ・ 発表用のファイル名は「セッション名+演題番号+氏名」としてください。
- ・ バックアップ用としてご自身のPC もご持参いただくことをお勧めいたします。

【PC本体をお持込の方へ (Windows、Macintosh)】

- ・ 発表に動画を使用される場合や、Macintoshでの発表を希望される場合はご自身のPC持ち込みを推奨いたします。
- ・ PC本体を持ち込みの場合でも、バックアップデータとしてUSBフラッシュメモリに保存したデータをお持ちください。
- ・ PCのACアダプターは各自ご持参ください。
- ・ 会場で用意するPCケーブルコネクタの形状はHDMIです。
- ・ この形状にあったPCをご用意いただくか、この形状に変換するコネクタをご用意ください。

ポスター発表について

1. ポスターパネルのサイズは右図の通りです。
パネル左上の演題番号は運営事務局で用意します。
演題名、所属、演者名はご自身でご用意の上、演題番号の右に掲示してください。
2. 発表者用リボン、マグネットはポスターパネルに設置してあります。
3. 設営
ポスター設営：2023年11月6日(月) 8:30～11:30
ポスター撤去：2023年11月7日(火) 16:30～17:30
※撤去時間が過ぎても外されずに残っているポスターは、運営事務局にて処分させていただきます。
4. 発表形式と時間
発表日時 2023年11月6日(月) 18:45～20:00
発表形式は自由討論形式です。
ご自身の発表ポスターパネル前にお立ちいただき、討論を行ってください。その際、会場で配布する発表者用リボンをわかりやすい位置に着用ください。



単位取得について

単位

日本精神神経学会 精神科専門医制度

取得単位数：単位対象セッションの受講で3単位（ポイント対象学会B群）

【単位対象セッション】シンポジウム1～12（スポンサードシンポジウムは対象外です）

受付付近にて「日本精神神経学会 精神科専門医制度」単位申請のQRコードを掲示致します。
QRコードを読み取り、必要事項をご入力の上送信をお願い致します。

※会期中、1人1回の申請で構いません。

※学会終了後の受付は致しかねます。

若手研究者育成プログラム

前半

日 時：11月6日（月）9:00～12:00

会 場：第1会場 サミットホール（1/2）

【プロGRESSレポート（最優秀奨励賞選考）】

演 者：

多田 真理子（東京大学）

吉野 祐太（愛媛大学）

山室 和彦（奈良県立医科大学）

木村 大樹（名古屋大学）

小原 知之（九州大学）

扇谷 昌宏（旭川医科大学）

松岡 究（奈良県立医科大学）

高橋 雄太（国立精神・神経医療研究センター）

塩飽 裕紀（東京医科歯科大学）

松本 純弥（国立精神・神経医療研究センター）

宮田 淳（京都大学）

【ショートトーク】

村田 唯（熊本大学）

森田 健太郎（東京大学）

中神 由香子（京都大学）

松田 真悟（昭和薬科大学）

白井 紀好（大阪大学）

大塚 郁夫（神戸大学）

宮下 光弘（東京都医学総合研究所）

柏木 宏子（国立精神・神経医療研究センター）

ベナー 聖子（国立環境研究所）

二宮 光平（藤田医科大学）

向井 馨一郎（兵庫医科大学）

後半

日 時：11月6日（月）13:30～15:10

会 場：第1会場 サミットホール（1/2）

【第9回最優秀奨励賞受賞講演】13:30～14:00

演 者：

越山 太輔（東京大学）

【第12回奨励賞受賞者発表】14:00～15:10

演 者：

和田 真孝（慶應義塾大学）

中村 匠（理化学研究所）

小尾（永田）紀翔（理化学研究所）
三村 悠（慶應義塾大学）
山田 悠至（国立精神・神経医療研究センター）
高松 岳矢（琉球大学）

令和5年度若手研究者育成プログラム交流会

日時 : 2023年11月5(日) 集合15:50
グループディスカッション : 16:00 ~ 18:00 120分
会場 : 第2会場・第3会場

若手研究者育成プログラムは、若手の生物学的精神医学研究者を大学などの垣根を越えて、生物学的精神医学会にて育成することを目的にしています。これまで大会期間中の若手研究者育成プログラム内の限られた時間の中で討論を行ってまいりましたが、もっと討論したい、もっと質問したい、もっと詳細に研究内容を知りたい、という要望が出てまいりました。昨年に引き続きまして、日本生物学的精神医学会若手育成プログラム交流会を開催し、十分な時間をとり、若手研究者同士で日ごろの疑問や意見や情報を積極的に交換できる場を提供する運びとなりました。ぜひ、奮って参加していただき、若手研究者間の交流を深めていただけましたら幸いです。特に、大学院生、専攻医、学会初参加の皆様を歓迎いたします。

学会参加者であれば、生物学的精神医学会員でなくても参加可能ですので、非会員の皆様もぜひご参加ください。

グループディスカッションへの参加費は無料です。

申込方法：

交流会の申込先: <https://forms.gle/RiyC8ZvDM9ssrcm78>

小池進介（令和5年度若手研究者育成プログラム交流会代表世話人）

次回大会情報

大会名： 第46回日本生物学的精神医学会年会
テーマ： Deciphering the mind: Transcending borders for the future
会期： 2024年7月24日（水）～27日（土）
会場： 福岡コンベンションセンター（福岡県）
大会長： 山末英典（浜松医科大学医学部精神医学講座）
ホームページ： <https://neuro2024.jnss.org/index.html>

2022年度（第31回）日本生物学的的精神医学会学術賞・ 2022年度国際学会発表奨励賞

- ・2022年度（第31回）学術賞

受賞者：塩飽 裕紀（東京医科歯科大学大学院）

論文名：「Autoantibodies against NCAMI from patients with schizophrenia cause schizophrenia-related behavior and changes in synapses in mice」

- ・2022年度国際学会発表奨励賞

受賞者：渡邊 理紗（熊本大学大学院医学系研究科分子脳科学講座）

論文名：「Distinctive epigenetic regulation of Ll promoters in the human brain and its implication for psychiatric disorders」 - Cold Spring Harbor Laboratory Meeting (Transposable Elements)

受賞者：澤頭 亮（北海道大学創成研究機構L-Station、北海道大学医学研究院神経生理学教室）

論文名：「Prefrontal neuronal activity related to storage and extinction of short-term memory during oculomotor n-back task in monkeys」 - 北米神経科学会

日時：11月6日(月)～7日(火)

会場：サミットホール（ポスター会場）

形式：ポスター会場にてポスターを掲示

プログラム

プレジデンシャルシンポジウム

シンポジウム

共催セミナー

一般演題（ポスター）

プレジデンシャルシンポジウム

プレジデンシャルシンポジウム

11月6日(月) 15:30～17:30 第1会場(サミットホール)

量子生命科学による精神神経疾患のメカニズム解明に向けた挑戦

オーガナイザー：須原 哲也 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 量子生命化学研究所
座長：岩田 伸生 藤田医科大学 医学部 精神神経科学
須原 哲也 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 量子生命化学研究所

【趣旨・狙い】

近年、量子現象に基づく新しいセンシング技術や、量子コンピュータに関連する計算技術、あるいは量子力学の礎となる数学的枠組みを生命科学に適用する「量子生命科学」という新しい分野において研究開発が急速に進展している。本シンポジウムでは、当該分野の計測技術・理論的枠組みが精神神経疾患の病態解明にいかなる役割を果たしうるか、最新の技術開発・研究事例に触れながら今後の展望を検討する。量子センシング技術としては、ダイヤモンド窒素-空孔中心(NVセンター)による細胞内環境計測、ならびに超偏極技術による超高感度代謝イメージングを取り上げる。量子計算技術としては、量子インスパイアード計算技術やアニーリングマシンを用いた新しい神経活動データ解析手法について検討する。最後に、量子論の数学的枠組みを援用して様々な認知・心理現象の理解の深化を目指す量子認知分野の研究を紹介する。

PS1 量子生命科学とは

須原 哲也 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構

PS2 極微小・極微量の生命計測を可能にする生体ナノ量子センサ技術

五十嵐 龍治 量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門 量子生命化学研究所

PS3 量子計測技術としての動的核偏極法と超高感度代謝イメージング

高草木 洋一 量子科学技術研究開発機構 量子生命化学研究所

PS4 量子コンピューティング技術の生命科学研究への応用可能性：現状と将来展望

八幡 憲明 量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門 量子生命化学研究所

PS5 ムーンショット微小炎症プロジェクトと連携した脳内炎症を標的とした量子診断プラットフォーム形成の試み

村上 正晃 北海道大学遺伝子病制御研究所
量子科学技術研究開発機構量子生命化学研究所
自然科学研究機構生理学研究所

PS6 脳疾患における免疫細胞の多様な機能変化をとらえる量子計測技術の構築

田桑 弘之 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門 量子生命化学研究所 量子神経マッピング制御チーム

PS7 超偏極 MRS による脳エネルギー代謝評価系を用いた精神疾患の病態研究への展望

高堂 裕平 量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門 量子生命化学研究所

PS8 信念更新における量子ゼノン効果

山田 真希子 量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門 量子生命化学研究所

シンポジウム

シンポジウム 1

11月6日(月) 9:30～11:30 第2会場(オーシャンホールA)

スクリーンタイムと神経発達症

オーガナイザー：高橋 長秀 名古屋大学医学部附属病院 親と子どもの心療科
座長：土屋 賢治 浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター
高橋 長秀 浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター

【趣旨】

スクリーンタイムと神経発達症の関連は非常に注目を集めている領域である。一方で、スクリーンタイムは神経発達症のリスクなのか、早期兆候なのか、経過に影響を与えるのか、については知見が一致しないこともあり、臨床現場においてどう保護者にアドバイスすべきか、非常に悩ましいのが現状である。

本シンポジウムにおいては、大規模出生コホートの解析結果、精緻な表現型に定評のあるコホートを用いた解析結果、遺伝的リスクを考慮した因果関係の推定、スクリーンタイムと睡眠覚醒リズムに重要なメラトニンの関連の検討、など、様々な切り口から本テーマにアプローチしている研究者に登壇頂く。そして、スクリーンタイムと神経発達症の関連について、これまでにわかっていること・明らかになっていないことを確認し、今後目指すべき研究の方向性について議論を深めたいと考えている。

シンポジウム1-1 1歳時のスクリーンタイムと3歳時の自閉スペクトラム症との関連：エコチル調査より

久島 萌 山梨大学大学院総合研究部附属 出生コホート研究センター

シンポジウム1-2 スクリーンタイムと子どもの神経発達症の予後：知見を振り返る

土屋 賢治 浜松医科大学 子どものこころの発達研究センター

シンポジウム1-3 神経発達症の遺伝的リスクとスクリーンタイムへの影響

高橋 長秀 名古屋大学医学部附属病院 親と子どもの心療科

シンポジウム1-4 スクリーンタイムが概日リズムを介して神経発達症の表現型に關与する可能性

高江洲 義和 琉球大学医学部精神病態医学講座

せん妄を科学する

オーガナイザー：金沢 徹文 大阪医科薬科大学 精神神経科
座長：金沢 徹文 大阪医科薬科大学 精神神経科
岩田 正明 鳥取大学医学部 脳神経医科学講座 精神行動医学分野

【趣旨】

日本のみならず世界各国が高齢社会に進む中でせん妄の重要性はますます際立っている。せん妄は有病率が非常に高いもの見落とされやすいと疾患とされ、アメリカではせん妄による医療費は年間1500億ドルに及び、長期にわたる認知機能障害や死亡に至るなど転帰の悪化にも影響するとされている。だが、せん妄の病態ははまだ解明されておらず、まだ迅速診断や有効な治療の開発は確立しているとは言い難い。近年、せん妄の病態の機序として神経炎症が役割を担っていることに注目が集まり、様々な報告がなされているものの確固とした結論は出されていない。本シンポジウムにおいて現場での最新の治療における変化に関する報告や、せん妄の転帰予測や検出を目指して開発されたデバイスの報告、エピジェネティカルな観点から病態解明を目指した報告、さらにせん妄モデルマウスを用いた基礎研究の報告を行う。その上で多角的な観点から病態解明を目指す議論をする。

シンポジウム2-1 Bispectral EEG(BSEEG)によるせん妄の検出と予後予測

西澤 由貴 スタンフォード大学 精神科

シンポジウム2-2 新しいせん妄予防法の検証 ～メトホルミンと抗炎症薬を中心に～

山梨 豪彦 鳥取大学医学部附属病院 精神科

シンポジウム2-3 せん妄のEpigenetics仮説とバイオインフォマティクスの探索

篠崎 元 スタンフォード大学 精神科

シンポジウム2-4 せん妄の介入法における近年の変化と生物学的背景

八田 耕太郎 順天堂大学医学部附属練馬病院メンタルクリニック

単一モダリティの大規模データを起点とした階層性データベース構築の意義

オーガナイザー：小池 進介 東京大学大学院総合文化研究科進化認知科学研究センター
座長：池田 匡志 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学
小原 知之 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

【趣旨】

精神疾患ヒト生物学的指標を用いた研究が進展し、現在では大規模化、多施設化が一般的となった。特に脳磁気共鳴画像およびゲノム研究では、国際コンソーシアムによる大規模解析が進行中で、疾患横断検討、疾患再分類等が進められている。一方、単一モダリティにおける検討だけでは臨床応用、病態解明ともに限界があることもわかった。そのためマルチモダリティ解析が求められるが、各研究機関の限界があり、大規模化は望めない。また、各モダリティが細分専門化し、他のモダリティについて取り扱える余地がなくなったため、階層性データを一研究者、研究グループが適切に取り扱うことも困難である。本シンポジウムでは現在AMED研究PJで中心に進められている多施設、大規模、疾患横断の階層性データベース構築について紹介し、各モダリティの現状と課題、今後の国内標準化について議論したい。

シンポジウム3-1 大規模、疾患横断脳MRI研究を起点とした階層性データ解析

小池 進介 東京大学 大学院総合文化研究科 進化認知科学研究センター

シンポジウム3-2 国内多施設臨床脳波研究のデータベース構築とその意義

平野 羊嗣 宮崎大学医学部 臨床神経科学講座 精神医学分野

シンポジウム3-3 遺伝的な多層データに基づく統合失調症の層別化

大井 一高 岐阜大学大学院医学系研究科精神医学

シンポジウム3-4 階層性データベース構築における大規模エピゲノムデータ収集の現状について

岩本 和也 熊本大学大学院生命科学研究部分子脳科学講座

シンポジウム3-5 脳内外をつなぐエクソソームの可能性について

牧之段 学 奈良県立医科大学精神医学講座

ひきこもりを生物学的に理解する：臨床・基礎・理論の融合

オーガナイザー：加藤 隆弘 九州大学大学院 医学研究院 精神病態医学
座長：加藤 隆弘 九州大学大学院 医学研究院 精神病態医学
疋田 貴俊 大阪大学 蛋白質研究所

【趣旨】

社会的ひきこもりは、6ヶ月以上自宅にとどまり続ける状況を指し、ひきこもり者は国内140万を越え、国家的重点課題である。2022年DSM-5TRに掲載され、国際的にも注目されている。従来、心理社会的側面ばかりが注目されてきたが、本シンポジウムでは、ひきこもり病態に生物学的基盤を見出すための先駆的研究を行っている演者達がこれまでの成果を紹介する。加藤は大学病院に立ち上げているひきこもり研究外来システムとその成果を紹介する。基礎生物学者の瀬戸山は、ひきこもりの血液メタボローム解析の知見を紹介する。精神疾患モデル動物研究を推進している疋田は、ひきこもり関連マウスの知見を紹介する。理論生物学者である本田は、生物・心理・社会といった多階層データ解析によるひきこもりの層別化に関する知見を紹介する。臨床・基礎・理論の融合によりひきこもりの病態理解が進み、ひきこもりの抜本的な打開策が創出されることを期待する。

シンポジウム4-1 「病的ひきこもり (pathological social withdrawal)」の診断評価システム：生物学的理解のために

加藤 隆弘 九州大学大学院 医学研究院 精神病態医学

シンポジウム4-2 ひきこもりの客観的血液指標

瀬戸山 大樹 九州大学病院 検査部

シンポジウム4-3 ひきこもりの意思決定の神経基盤へのアプローチ

疋田 貴俊 大阪大学 蛋白質研究所 高次脳機能学研究室

シンポジウム4-4 機械学習による信頼行動とバイオマーカーとの関連性の解明

本田 直樹 広島大学大学院 統合生命科学研究科

気分障害のMRI研究からわかる、寛解と回復に関連した神経回路基盤

オーガナイザー：平野 仁一 慶應義塾大学医学部精神神経科
座長：三村 将 慶應義塾大学医学部
中込 和幸 国立精神・神経医療研究センター

【趣旨】

気分障害は、2030年に全世界の疾病負荷の第1位になると予測されているが、現在まで治療選択に寄与する生物学的所見は見出されおらず、気分障害の寛解と回復に関連した神経回路基盤は未明のままである。すなわち、気分障害の治療機序の解明、治療選択に資する知見の創出は精神科医療において喫緊の課題である。

本シンポジウムでは、500症例(うつ病350症例、健常150症例)に対し、4種類の異なる治療介入(薬物療法、CBT、ECT、rTMS)前後での脳MRIデータ収集を行った気分障害において過去最大規模の縦断脳画像研究である「気分障害における寛解と回復に関連した神経回路基盤の解明」に参加する研究者が脳画像(MRI)を中心としてうつ病の各種治療法の作用機序に関する最新の知見を共有し、気分障害のMRI研究からわかる、寛解と回復に関連した神経回路基盤に迫るとともに、本研究の成果の発展性について議論する。

シンポジウム5-1 「気分障害における寛解と回復に関連した神経回路基盤の解明に資する縦断MRI研究」の概要と気分障害における機械学習モデル

平野 仁一 慶應義塾大学医学部精神神経科

シンポジウム5-2 うつ病治療経過における抑うつ症状および認知機能変化に関連した縦断的MRI研究

野田 隆政 国立精神・神経医療研究センター病院精神診療部

シンポジウム5-3 AIによるヒト手網核セグメンテーションと、電気けいれん療法での治療変化

久良木 悠介 京都大学大学院 医学系研究科 脳病態生理学講座(精神医学)

シンポジウム5-4 うつ病における認知行動療法の効果と脳画像変化-主にfunctional connectivityとdynamic functional connectivityの変化-

片山 奈理子 慶應義塾大学 医学部 精神・神経科学教室

いわゆる老年期精神病の生物学的背景を考察する

オーガナイザー：入谷 修司 桶狭間病院藤田こころケアセンター附属脳研究所
 座長：入谷 修司 桶狭間病院藤田こころケアセンター附属脳研究所
 池田 研二 東京都医学総合研究所

【趣旨】

現在汎用されている操作的診断では、統合失調症の診断に年齢的制約はない。よって臨床的な項目を満たせば統合失調症と診断可能である。しかし、老年期の幻覚妄想状態は、統合失調症の病態とは、疾患単位の不均一性や脳器質因の影響のバリエーションの複雑さなどから生物学的基盤がちがうことが従前から想起されてきた。本シンポジウムでは、1)いわゆる老年期精神病の概念と病態解明のアプローチを顧み、2)脳変性疾患との関係性を論じ、そのなかで特に3)レビー小体病変との関連、4)脳タウ病変との関連について論じていただく。さらに5)老年期の妄想の病態として神経心理的立場からその生物学的基盤の背景を論じていただく。そして、6)統合失調症の長期経過のなかでみられる認知機能の低下(認知症)の背景について論じて頂く。これらのテーマを通じていわゆる老年期精神病といわれる病態の理解を深めたい。

シンポジウム6-1 いわゆる老年期精神病の生物学的背景を考察する

入谷 修司 桶狭間病院藤田こころケアセンター附属脳研究所

シンポジウム6-2 老年期精神病の概念と病態解明の困難について

笠貫 浩史 聖マリアンナ医科大学 神経精神科学教室

シンポジウム6-3 老年精神病と神経変性疾患

関口 裕孝 桶狭間病院藤田こころケアセンター

シンポジウム6-4 レビー小体病における臨床スペクトラムの再考

藤城 弘樹 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学

シンポジウム6-5 老年期精神障害とタウオパチーの関係性

河上 緒 公益財団法人 東京都医学総合研究所 分子病理・ヒストロジー解析室

シンポジウム6-6 老年期の幻覚妄想とBPSD

橋本 衛 近畿大学 医学部 精神神経科学教室

シンポジウム6-7 高齢期統合失調症の認知機能低下の生物学的背景

荒深 周生 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学

Beyond Hypothesis in Psychiatry：仮説からの脱却のために我々ができること

.....

オーガナイザー：平野 羊嗣 宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野
座長：加藤 忠史 順天堂大学医学部精神医学講座
平野 羊嗣 宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野

【趣旨】

精神薬理学の進歩によってもたらされたモノアミン仮説をはじめとする精神疾患の種々の仮説は、その後の向精神薬開発に一定の貢献をしたものの、その限界が指摘されている。科学の長足の発展にも関わらず、精神疾患の病因は依然として不明で、未だに「OO仮説」の域を出ていない。仮説はあくまで検証のための道具に過ぎず、革新的な研究によってあらたなブレークスルーが生まれ「仮説が仮説でなくなること」、つまり「仮説からの脱却」が重要である。本シンポジウムでは、精神疾患の生物学的基礎研究の第一線で活躍されている研究者に、各々の仮説検証でわかったこと、またその限界と課題、さらには仮説を超えるための方略について発表して頂き、議論を深めたいと思う。

シンポジウム7-1 うつ病の神経細胞新生仮説を再考する

朴 秀賢 熊本大学 大学院生命科学研究部 神経精神医学講座

シンポジウム7-2 精神疾患における自己抗体仮説を診断と治療につなげる

塩飽 裕紀 東京医科歯科大学大学院 精神行動医科学分野

シンポジウム7-3 ドーパミン神経系と精神神経疾患—ドーパミン機能の多様性を通して統合失調症のドーパミン仮説を再考する—

石田 康 宮崎大学 医学部 精神医学教室

シンポジウム7-4 ノルアドレナリンによるミクログリアを介した新しいシナプス制御機序

柳下 祥 東京大学医学系研究科

精神疾患のゲノム研究の現在と展望

オーガナイザー：齋藤 竹生 藤田医科大学精神神経科学
座長：齋藤 竹生 藤田医科大学精神神経科学
池田 匡志 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学

【趣旨】

近年のゲノム解析技術の進歩により網羅的なゲノム解析が可能となり、精神疾患を始めとする複雑疾患において、疾患感受性遺伝子が多数同定され新たな知見が蓄積されてきている。しかし、精神疾患ではまだまだ確度の高い結果は得られているとは言えず、精神疾患の病態生理理解明に向けて、今後のブレークスルーが期待される。本シンポジウムでは、ゲノム・エピゲノムの観点から精神疾患の病態に迫る研究をまとめるとともに、今後の方向性を議論する。また、病態解明のみならずゲノム研究の結果は臨床に還元されるのかについて、臨床実践の出口に近いと考えられる、精神科領域の薬理遺伝学・ゲノム学(PGt/PGx)も視野に入れながら検討し議論したい。

シンポジウム 8-1 精神疾患のレアバリエント解析からコモンバリエントを含めた統合解析への展望

木村 大樹 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野

シンポジウム 8-2 精神疾患の common variant を対象とした研究～臨床的意義と社会実装に向けて

池田 匡志 名古屋大学 医学部 精神医学

シンポジウム 8-3 精神疾患におけるエピジェネティクス解析の進展

池亀 天平 東京大学大学院医学系研究科精神医学分野

シンポジウム 8-4 向精神薬の薬理ゲノム学

齋藤 竹生 藤田医科大学医学部精神神経科学

セロトニントランスポーター再訪

オーガナイザー：岩本 和也 熊本大学大学院生命科学研究部分子脳科学講座
座長：岩本 和也 熊本大学大学院生命科学研究部分子脳科学講座
宮川 剛 藤田医科大学総合医科学研究所システム医科学

【趣旨】

セロトニントランスポーター (5-HTT) はシナプス間隙のセロトニン再取り込みに関わり、セロトニン神経系の調節を担う分子である。薬理的には、抗うつ薬の主要な標的として局在化機構や再取り込み阻害作用の研究が、遺伝学的には、遺伝環境相互作用の観点から5-HTTLPR多型の関連研究が行われており、その機能と役割の重要性については一定のコンセンサスが得られていると言える。しかし、5-HTTの機能、薬理作用、精神疾患との関係など、本質的な部分ではいずれも未解明の点や不一致な点が多く、次々と新しい知見が生み出されている分子でもある。本シンポジウムでは、薬理学、動物モデル、遺伝学、エピジェネティクス、脳画像研究から、分野横断的に5-HTTの最新の知見を紹介する。5-HTTについて包括的な理解を深め、既存のコンセンサスのupdateに貢献できれば幸いである。

シンポジウム9-1 セロトニントランスポーター遺伝子欠損マウスの行動・脳表現型解析

昌子 浩孝 藤田医科大学 医科学研究センター システム医科学研究部門

シンポジウム9-2 薬物標的としての海馬セロトニントランスポーター

小林 克典 日本医科大学大学院 医学研究科 薬理学分野

シンポジウム9-3 精神神経疾患を対象としたセロトニントランスポーターのゲノム・エピゲノム解析

岩本 和也 熊本大学大学院生命科学研究部分子脳科学講座

シンポジウム9-4 リン酸化、膜輸送、パルミトイル化によるセロトニントランスポーターの機能調節

酒井 規雄 広島大学 医系科学研究科 神経薬理学

シンポジウム9-5 精神症状へのセロトニントランスポーターの関与についてのPositron emission tomography研究：神経免疫との相互作用の観点から

山末 英典 浜松医科大学 精神医学講座

うつ病, その病態の複雑系: overlap/difference/interaction

.....

オーガナイザー: 吉村 玲児 産業医科大学医学部精神医学
座長: 吉村 玲児 産業医科大学医学部精神医学
功刀 浩 帝京大学医学部精神神経科学講座

【趣旨】

うつ病は精神疾患の中で最もDALY/YLSの損失の大きい疾患であり、全疾患でも第2位になっています。うつ病は異種性の高い疾患であり、そのフェノタイプも多種・多様です。その原因の一つにはうつ病の病態が複雑かつ多様であり、それらのoverlap/difference/interactionに起因していることにありましょう。本シンポジウムでは新しいうつ病の病態(仮説)がそれぞれどのように結びついているのかの考察を深めることを目的としています。具体的にはマイクロバイーム、脳内炎症、ウイルス感染、免疫異常という観点から、うつ病の病態を論じたいと思います。そしてそれぞれの病態のoverlap/difference/interactionによりどのようなうつ病フェノタイプが形成されるのかについても言及する予定です。さらには既存薬物治療への反応性や新しい標的分子に作用する創薬の可能性などについても議論したいと思います。

シンポジウム 10-1 うつ病, その病態の複雑系: overlap/difference/interaction

吉村 玲児 産業医科大学医学部精神医学

シンポジウム 10-2 うつ病と腸内マイクロバイーム

功刀 浩 帝京大学医学部精神神経科学講座

シンポジウム 10-3 気分変調にミクログリアの複雑な活性化は関与するのか? 患者血液を用いたリ
バーストランスレーショナル研究

加藤 隆弘 九州大学大学院医学研究院精神病態医学

シンポジウム 10-4 ヘルペスウイルスの潜伏感染によるうつ病発症リスクの増大

小林 伸行 東京慈恵会医科大学 ウイルス学講座

COVID-19 関連認知機能障害を含む新しいタイプの認知機能障害 —新しいタイプの認知機能障害とその病態生理仮説—

オーガナイザー：小川 朝生
座長：谷向 仁

国立がん研究センター先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野
京都大学大学院医学研究科 医学研究科 人間健康科学系専攻先端作業療
法学講座

小川 朝生

国立がん研究センター先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野

【趣旨】

認知機能障害は脳細胞の死滅などの理由で知覚・記憶・注意・実行機能などの障害を起こし社会生活に支障を来す。せん妄は長期的な認知機能障害につながる可能性があり術後認知機能障害との関連が指摘されている。COVID-19はせん妄の割合が高く全身性炎症と神経炎症の合併による脳症との関連が示唆されており、中期的な認知機能障害やうつ病などから、長期的なアルツハイマー病との関連が議論されている。がん関連認知機能障害はケモブレインをはじめ非中枢神経系のがん患者において化学療法、放射線療法や手術の治療後に神経心理学的機能が低下することを示す。慢性腎不全や慢性閉塞性肺疾患(COPD)、糖尿病など慢性疾患は重複することで認知機能障害のリスクを高めCOPDによる低酸素症や脳の構造変化が示唆されている。本シンポジウムでは近年注目されている新たな認知機能障害を呈示し、病態生理や薬物療法、リハビリなどの非薬物療法を含めて議論したい。

シンポジウム 11-1 | せん妄と認知機能障害

井上 真一郎 新見公立大学 健康科学部 看護学科
岡山医療専門職大学健康科学部理学療法学科

シンポジウム 11-2 | 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)における中長期の精神症状とメンタルヘルス

高橋 晶 筑波大学 医学医療系 災害・地域精神医学

シンポジウム 11-3 | COVID 関連認知機能障害

小川 朝生 国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科

シンポジウム 11-4 | 身体疾患における認知機能障害 ～心不全、COPD、腎疾患を中心に～

谷向 仁 京都大学大学院医学研究科

ニューロモデュレーションの最前線

オーガナイザー：住吉 太幹 国立精神神経センター
座長：西田 圭一郎 大阪医科薬科大学
高橋 隼 大阪大学

【趣旨】

精神疾患の治療方策は進歩を続けており、薬物療法のみならずデバイスを用いた電気や磁気による治療が試みられている。いうまでもなく、神経活動は電気信号によりその伝達が行なわれていることから、その非侵襲的な制御が行なわれるのであれば脳活動に対しそれらはより自然な治療に近いといえるのかもしれない。このシンポジウムでは4種類のニューロモデュレーションによる治療方法をあげ、各施設での研究成果や使用の実際、及びそれぞれの治療法による適応疾患や海外での適応拡大の紹介に加えて、これまで明らかにされてこなかったその工学的な作用機序についても最前線の研究結果を話すことを企画している。聴衆者にはこの企画を通じて、それぞれのニューロモデュレーション法を概観する機会を提供すると同時に、疾患の病態に迫る可能性のある作用機序を共に考える機会にしたいと考えている。

シンポジウム 12-1 ECTの実践と基礎研究における最近の話題

朴 秀賢 熊本大学 大学院生命科学研究部 神経精神医学講座

シンポジウム 12-2 うつ病に対する rTMS 療法の生物学的指標

今津 伸一 大阪医科薬科大学 神経精神医学教室

シンポジウム 12-3 経頭蓋直流刺激 (tDCS) を用いた精神疾患治療研究の動向

山田 悠至 国立精神・神経医療研究センター病院

シンポジウム 12-4 精神疾患領域におけるニューロフィードバックの医療応用に向けた取り組み

千葉 俊周 国際電気通信基礎技術研究所 行動変容研究室

共催セミナー

ランチョンセミナー 1 11月6日(月) 12:10～13:00 第1会場(サミットホール)

共催：武田薬品工業株式会社/ルンドベック・ジャパン株式会社

座長：中川 伸 山口大学大学院医学系研究科 高次脳機能病態学講座 教授

「うつ病と認知症の関連性 ～前駆状態か危険因子か～」

馬場 元 順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院 メンタルクリニック 教授

ランチョンセミナー 2 11月6日(月) 12:10～13:00 第2会場(オーシャンホールA)

共催：Meiji Seikaファルマ株式会社

座長：伊豫 雅臣 千葉大学大学院医学研究院精神医学
千葉大学社会精神保健教育研究センター

「精神疾患と腸－脳相関・代謝」

功刀 浩 帝京大学医学部精神神経科学講座

ランチョンセミナー 3 11月6日(月) 12:10～13:00 第3会場(オーシャンホールB)

共催：大塚製薬株式会社 メディカルアフェアーズ部

座長：岩田 正明 鳥取大学医学部 脳神経医学講座 精神行動医学分野

うつ病の個別化医療実現のための生物学と精神病理学との融合による多軸的評価支援システム

加藤 隆弘 九州大学大学院医学研究院 精神病態医学

イブニングセミナー 1 11月6日(月) 17:45～18:35 第1会場(サミットホール)

共催：住友ファーマ株式会社

座長：伊賀 淳一 愛媛大学大学院医学系研究科 精神神経科学講座 准教授

統合失調症と髄鞘形成 ～プロナンセリンの可能性も含めて～

牧之段 学 奈良県立医科大学 精神医学講座 准教授

イブニングセミナー 2 11月6日(月) 17:45～18:35 第3会場(オーシャンホールB)

共催：Meiji Seikaファルマ株式会社

座長：功刀 浩 帝京大学 医学部 精神神経科学講座

うつ病に対する食事を用いた抗炎症療法の可能性

岩田 正明 鳥取大学 医学部 脳神経医学講座

イブニングセミナー 3

11月6日(月) 17:45～18:35 第4会場(オーシャンホールC)

共催：MSD株式会社

座長：山末 英典 国立大学法人 浜松医科大学 医学部 精神医学講座

REM睡眠から考える不眠症治療～オレキシン受容体拮抗薬の新たな可能性～

高江洲 義和 琉球大学大学院医学研究科 精神病態医学講座

モーニングセミナー 1

11月7日(火) 8:30～9:20 第1会場(サミットホール)

共催：武田薬品工業株式会社/ルンドベック・ジャパン株式会社

座長：池田 匡志 名古屋大学大学院医学系研究科 脳神経病態制御学講座 精神医学分野 教授

睡眠・覚醒リズムに着目した気分障害の診断と治療

高江洲 義和 琉球大学大学院医学研究科 精神病態医学講座 准教授

モーニングセミナー 2

11月7日(火) 8:30～9:20 第2会場(オーシャンホールA)

共催：日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 医療開発本部

座長：川崎 康弘 金沢医科大学 精神神経科学 主任教授

電気生理学的観点にもとづく精神疾患の予防・リハビリ

住吉 太幹 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 児童・予防精神医学研究部 部長

ランチョンセミナー 4

11月7日(火) 12:40～13:30 第1会場(サミットホール)

共催：住友ファーマ株式会社

座長：岩田 仲生 藤田医科大学 医学部 精神神経科学講座 教授

統合失調症と双極性障害の遺伝的共通性から考える診断と治療

池田 匡志 名古屋大学大学院医学系研究科 精神医学 教授

ランチョンセミナー 5

11月7日(火) 12:40～13:30 第2会場(オーシャンホールA)

共催：武田薬品工業株式会社 ジャパンメディカルオフィス/ルンドベック・ジャパン株式会社 メディカルアフェアーズ部

座長：伊賀 淳一 愛媛大学大学院医学系研究科 精神神経科学講座

うつ病におけるウェルビーイングとは：personal recovery と emotional blunting

菊地 俊暁 慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室

座長: 加藤 忠史 順天堂大学医学部精神医学講座/大学院医学研究科精神・行動科学

「社会的ひきこもり」の新たな精神医学的位置付けと治療的アプローチ

加藤 隆弘 九州大学 大学院医学研究院 精神病態医学

座長: 近藤 毅 琉球大学大学院医学研究科 精神病態医学講座 教授

統合失調症の再発予防

～ゼプリオン®ゼプリオンTRI®の臨床的価値から考える～

平安 良雄 医療法人へいあん 平安病院 法人統括院長・臨床研修センター長
横浜市立大学名誉教授

一般演題（ポスター）

一般演題（ポスター）

11月6日（月） 18：45～20：00 ポスター（サミットホール）

- 1 統合失調症の背外側前頭前野トランスクリプトーム解析に基づく疾患病態の性差解明
○兪 志前 東北大院・医・精神神経学、東北大・メディカルメガバンク
- 2 神経活動賦活はDNAメチル化状態の変化を介してPTSDモデル動物の恐怖記憶の消去障害を改善する
○藤田 翔 広島大学大学院医系科学研究科 精神神経医科学
- 3 ヒストンメチル基転移酵素変異マウスにおけるトランスクリプトーム変化と自閉症様行動および薬剤投与による治療効果の同定
○中村 匠 理化学研究所脳神経科学研究センター分子精神病理研究チーム、
順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学
- 4 胎仔期のハロペリドール曝露が仔海馬のCdkn1a遺伝子とApaf1遺伝子の遺伝子発現に与える影響について
○久門 啓志 愛媛大学大学院医学系研究科 精神神経科学
- 5 ミクログリアが分泌するBDNFは内側前頭前野の発達と社会性行動を時期特異的に制御する
○小森 崇史 奈良県立医科大学 精神医学講座
- 6 神経細胞特異的にミトコンドリアDNA欠失が蓄積するPolg変異マウスの前頭皮質を用いた細胞種特異的なDNAメチル化解析
○菅原 裕子 福岡大学医学部精神医学教室
- 7 恐怖記憶の記憶形成の初期段階にはミクログリアは必須ではない
○佐藤 真有実 防衛医科大学校 精神科学講座
- 8 統合失調症モデルマウスにおけるミクログリアへの抗精神病薬の作用
○曾我 鷹平 筑波大学 医学医療系 解剖学・神経科学研究室、筑波大学医学群医学類5年
- 9 クプリゾン投与マウスにおける神経炎症と精神疾患関連行動異常の関係性
○櫻井 航輝 大阪大学 蛋白質研究所 高次脳機能学、大阪大学 蛋白質研究所 機能・発現プロテオミクス
- 10 慢性コルチコステロン暴露モデルマウスにおける中枢神経マクロファージの表現型の変化
○中川 隆一 防衛医科大学校精神医学講座
- 11 自閉スペクトラム症患者由来マクロファージにおける貪食能の評価
○西 佑記 奈良県立医科大学精神医学講座

- 12 ストレス応答に関連するベータヒドロキシ酪酸の産生についての細胞特異的な影響の検討
○佐藤 志保 東北大学大学院医学系研究科精神神経学分野
- 13 VPS13A ノックダウンによるフェロトーシスの促進
○西澤 芳明 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 精神機能病学分野
- 14 アルコール関連行動異常を引き起こす核一細胞質間輸送メカニズムの解析
○青峰 良淳 大阪大学・蛋白質研究所
- 15 ヒトヘルペスウイルス6 (HHV-6) によるうつ病発症メカニズムの解明—
—ストレスによる脳内炎症誘導との関係—
○岡 直美 東京慈恵会医科大学医学部ウイルス学講座
- 16 神経発火・行動異常を引き起こす巨大スパインの非線形コンピューテーション
○小尾(永田) 紀翔 Laboratory for Multi-scale Biological Psychiatry, Center for Brain Science, RIKEN,
Gunma University Graduate School of Medicine
- 17 ミトコンドリア代謝制御遺伝子に注目した双極性障害の病態研究
○高松 岳矢 琉球大院・医・分子細胞生理、琉球大院・医・精神
- 18 幼少期の社会的孤立は早期よりマウス内側前頭前野 fast-spiking parvalbumin 陽性介
在ニューロンのサブタイプに影響する
○岡村 和哉 奈良県立医科大学 精神医学講座
- 19 自閉症マウスモデルにおけるセロトニン神経回路の薬理反応障害
○荒川 礼行 琉球大学大学院医学研究科
- 20 統合失調症モデル動物を用いた急性脳内炎症による陽性症状改善の神経メカニズムの
解明
○篠原 陸斗 市立釧路総合病院精神神経科
- 21 Prefrontal neuronal signals related to extinction of short-term memory during
oculomotor n-back task in monkeys
○澤頭 亮 北海道大学大学院医学研究院神経生理学教室、北海道大学大学院医学研究院精神医学教室、
北海道大学創成研究機構 L-Station
- 22 三環系抗うつ薬はGタンパク質バイアス型LPA1受容体作動薬として抗うつ効果に関与
する
○梶谷 直人 熊本大院・生命科学・健康長寿代謝制御研究センター、熊本大院・生命科学・神経精神医学、
独) 国立病院機構呉医療センター・臨床研究部・精神神経科学
- 23 マウス搔痒モデルの脳内c-Fos発現に対するL-DOPAくも膜下投与の効果
○内田 ひなの 宮崎大学・医・精神医学
- 24 抗酸化ストレス作用を有するタンドスピロン誘導体の統合失調症治療薬としての可能
性
○片岡 譲 金沢医科大学医学部精神神経科学

- 25 統合失調症とMRT1/SNX27の関連の可能性
○海野 真一 昭和大・医・薬理、東医歯大・院医歯・精神行動
- 26 軽度外傷性脳損傷は心理的ストレスに対する精神障害発症の脆弱性を亢進する
○古賀 農人 防衛医科大学校 精神科学講座
- 27 RFIDを用いた集団飼育コモン・マーモセットの認知・行動評価
○ベナー 聖子 国立環境研究所 環境リスク・健康領域、浜松医科大学 医学部精神医学講座
- 28 精神神経疾患モデルマウスの大規模行動データ収集／解析プラットフォームの開発
○遠藤 俊裕 フェノバンス合同会社
- 29 急性の痒みモデルマウスにおけるオレキシンの関与
○金丸 杏奈 宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野
- 30 急性のかゆみにおけるドーパミンの役割
○古郷 央一郎 宮崎大学医学部臨床神経科学講座精神医学分野
- 31 マウスにおける多指標／定量的運動解析の自動化に基づく新規行動薬理学手法の開発
○塩野 鈴佳 フェノバンス合同会社
- 32 BTBRマウスの自閉症関連行動と内側前頭前野における電気生理学的特徴に対するメトホルミンの効果
○池原 実伸 奈良県立医科大学精神医学講座
- 33 前頭前野への脳深部刺激によるさまざまな精神症状への効果
○noriyama yuki 奈良県立医科大学精神医学講座
- 34 思春期社会隔離マウスの社会性異常に対する耳介迷走神経刺激の効果
○國石 洋 福井大学 子どものこころの発達研究センター 脳機能発達学部門、
福井大学 ライフサイエンスイノベーションセンター、
大阪大学大学院 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学 連合小児発達学研究所
- 35 低強度パルス超音波はPTSDモデルラットの恐怖記憶の消去障害を改善する
○藤田 聡 広島大学大学院医系科学研究科精神神経医科学
- 36 食餌時間制限による減量では高脂質食摂取による不安様行動の発生が抑制されない
○篠崎 正紀 海上自衛隊佐世保診療所
- 37 統合失調症死後脳におけるS-パルミトイル化酵素遺伝子の発現についての検討
○細貝 優人 福島県立医科大学神経精神医学講座
- 38 双極性障害死後脳におけるホスホイノシチドシグナル関連タンパク質の発現変化
○日野 瑞城 東北大学災害科学国際研究所 災害精神医学分野、福島県立医科大学 神経精神医学講座
- 39 ヒト死後脳組織の網羅的遺伝子発現解析に対する交絡因子の影響についての検討
○旗野 将貴 福島県立医科大学 神経精神医学講座

- 40 アルツハイマー病におけるグルタミン酸濃度の低下とタウタンパク集積との関連
○松岡 究 奈良県立医科大学 精神医学講座、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門 量子医科学研究所 脳機能イメージング研究部
- 41 精神病発症ハイリスク群の発症における脳構造データに基づいた予測モデルの構築
○Zhu Yinghan 東京大学進化認知科学研究センター
- 42 腹部肥満が統合失調症の脳微細構造異常に与える影響
○Yamada Shinichi Department of Psychiatry and Psychotherapy, University Hospital, Ludwig-Maximilians University (LMU), Munich, Germany,
Department of Neuropsychiatry, Wakayama Medical University, Wakayama, Japan
- 43 「重大な意味を感じる」異常サリエンス体験と側頭極との関連
○宮田 淳 京都大院・医・精神医学
- 44 統合失調症における脳の側性化の変化：VBMによる大規模比較研究
○五十嵐 裕幸 京都大学大学院医学研究科 精神科神経科
- 45 Multidimensional Diffusion MRI 及び Inhomogeneous Magnetization Transfer Imaging を用いた統合失調症における脳の微細構造の変化
○タ キンキン 北海道大学大学院医学研究院 医理工学グローバルセンター
- 46 大うつ病性障害の脳内ネットワークマーカーの縦断的信頼性と臨床状態との関連性の検証
○新里 輔鷹 広島大学大学院 医歯薬保健学研究科 (医) 医学講座 精神神経医科学、琉球大学病院精神科神経科
- 47 体型のセルフスティグマと食物報酬に対する脳活動の関連
○中村 優子 東京大学大学院総合文化研究科進化認知科学研究センター
- 48 ADHD における神経情報処理の内在的タイムスケールのメチルフェニデートによる変化
○清水 正彬 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学分野
- 49 多施設共同研究による drug free の統合失調症患者における大脳皮質構造への疾患の効果の検討
○伊藤 颯姫 国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所・精神疾患病態研究部、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科
- 50 精神疾患における体積計測及び定量磁化率マッピングによる皮質下構造解析
○渋谷 周平 東京大学総合文化研究科 進化認知科学研究センター、順天堂大学
- 51 安静時機能的磁気共鳴画像法を用いたうつ病に対する rTMS 療法の機序の推定
○喜多 彬 和歌山県立医科大学 神経精神医学教室
- 52 多施設大規模の安静時機能的磁気共鳴脳画像を用いた脳内ネットワーク間因果性結合の疾患横断解析
○石田 卓也 和歌山県立医科大学神経精神医学講座、東京大学総合文化研究科進化認知研究センター

- 53 統合失調症と気分障害における海馬と大脳皮質および皮質下間の白質微細構造異常と、
構造的ネットワークと認知機能との関係
○池田 奈津子 和歌山県立医科大学神経精神医学教室
- 54 双極性障害における背側前帯状皮質のGABAとグルタミン酸濃度の検討—横断的
1H-MRS研究
○盛山 宗太郎 慶應義塾大学 医学研究科 精神・神経科学教室
- 55 治療抵抗性うつ病患者におけるT1w/T2w画像によるミエリン分布異常の検出
○本藤 伸章 慶應義塾大学 医学部 精神・神経科
- 56 児童思春期発症のうつ病の多施設大規模データによる大脳皮質構造解析
○松本 純弥 国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所・精神疾患病態研究部
- 57 治療抵抗性うつ病患者における神経突起配向分散および密度イメージングを用いた灰
白質微細構造の検討
○高橋 航来 慶應義塾大学医学部精神神経科学
- 58 アジア人と欧米人の聴覚情動認知時の脳活動の文化差に関する機能的MRI研究
○肥田 道彦 日本医科大学多摩永山病院精神神経科
- 59 治療抵抗性統合失調症におけるニューロメラニンの定量化:ニューロメラニン (NM) 感
受性MRI研究
○垂水 良介 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
- 60 大規模MRIデータの一括管理方法の検討
○牧野 拓哉 東京大学大学院総合文化研究科進化認知科学研究センター
- 61 東京大学進化認知科学研究センターにおけるMRI施設の利活用とデータフロー
○重光 咲希 東京大学大学院総合文化研究科進化認知科学研究センター
- 62 PETを用いたAMPA受容体分布に基づく双極性障害と大うつ病性障害の診断アルゴリ
ズムの可用性の検討
○津川 幸子 慶應義塾大学大学院医学研究科、横浜市立大学医学部生理学
- 63 統合失調症における $\alpha 7$ ニコチン性アセチルコリン受容体:[^{11}C](R)-MeQAAを用いた
PET脳画像研究
○和久田 智靖 浜松医大・医・精神医学講座
- 64 日本人統合失調症患者・両親60家系の全エクソームシーケンスによるデノボ変異の同
定
○森川 亮 新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野
- 65 統合失調症多発罹患家系の全エクソームシーケンス
○高野 紗都子 新潟大学大学院医歯学総合研究科精神医学分野

- 66 統合失調症の高ストレス応答群でのDNA二重鎖切断修復に関する分子の発現変動
○穴戸 理紗 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座
- 67 本邦のうつ病患者における疾患発症、薬物治療反応性に関するゲノムワイド関連解析 (GWAS)
○島本 優太郎 関西医科大学精神神経科、関西医科大学附属生命医学研究所ゲノム解析部門、医療法人社団瀬田川病院
- 68 双極性障害患者由来 induced microglia-like cells (iMG細胞) の RNA sequence 解析 双極性障害患者由来 induced microglia-like cells (iMG細胞) の RNA sequence 解析
○久良木 聡太 九州大学大学院医学研究院 精神病態医学
- 69 オキシトシン受容体遺伝子の遺伝多型は、両親の不適切な養育に対する感受性を調節することによって人格特徴に影響を与える
○能登 契介 山形大学医学部精神医学講座
- 70 シングルセル RNA-seq から L1 転写物を測定する scMORE 法の開発
○渡邊 理紗 熊本大学大学院生命科学研究部 分子脳科学講座
- 71 日本人精神疾患患者前頭葉試料における網羅的 DNA メチル化状態の予備的解析
○藤井 綾香 熊本大学大学院生命科学研究部分子脳科学講座
- 72 性別違和(性別不合)当事者の DNA メチル化プロファイル解析
○仲地 ゆたか 熊本大院・生命・分子脳科学、埼玉医科大・医・ゲノム基礎医学
- 73 自閉スペクトラム症におけるプロモーター領域 de novo 変異はクロマチン3次元構造を介した遺伝子制御によって疾患リスクに寄与する
○水野 翔太 国立研究開発法人理化学研究所 脳神経科学研究センター 分子精神病理研究チーム
- 74 健常母から伝わった 15q13.3 欠失が検出された自閉スペクトラム症の姉弟例
○古川 佐和子 名古屋大学大学院医学系研究科精神医学
- 75 自殺既遂者における MAOA 遺伝子プロモーター領域のミニサテライト多型の関連解析とメタアナリシス
○谷藤 貴紀 神戸大学大学院医学研究科精神医学分野
- 76 メタンフェタミン依存症におけるエピジェネティック・クロックの解析
○白井 寿行 神戸大学医学部附属病院
- 77 経頭蓋直流刺激の電極設置部位の違いによる統合失調症の症状への効果の差異
○山田 悠至 国立精神・神経医療研究センター病院 司法精神診療部
- 78 維持電気けいれん療法を導入したうつ病症例の臨床的特徴について
○工藤 駿 慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室
- 79 治療抵抗性うつ病に対する反復経頭蓋磁気刺激療法の治療反応性を基にした神経生理学的マーカーの層別化
○和田 真孝 慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室

- 80 治療抵抗性うつ病に対する反復経頭蓋磁気刺激療法の再発予防に関する検討：ランダム化比較試験の系統的レビューとメタ解析
○松田 勇紀 東京慈恵会医科大学精神医学講座、京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康増進・行動学分野、藤田医科大学医学部神経科学、国立精神・神経医療研究センター病院
- 81 治療抵抗性うつ病患者の末梢血成熟型 BDNF による経頭蓋磁気刺激療法に対する治療反応性の層別化
○新井 脩泰 熊本大学医学部神経精神医学講座、慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
- 82 統合失調症における deviance detection の障害と罹病期間との関連
○西村 亮一 東京大学医学部附属病院精神神経科
- 83 自閉スペクトラム症の背外側前頭前野に対する長間隔皮質内抑制パラダイムを用いた磁気刺激誘発脳波評価
○三村 悠 慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室
- 84 生成系脳型 AI モデルの開発：自由エネルギー原理に基づく霊長類広範皮質脳波生成シミュレーション
○高橋 雄太 NCNCP・疾病七部
- 85 量子化学の理論に基づく統合失調症圏の患者における抗精神病薬による脳波変化の評価
○尾崎 孝爾 北海道大学病院精神科神経科、北海道立向陽ヶ丘病院精神科、
- 86 統合失調症における音声誘発ガンマオシレーションの異常
○田村 俊介 宮崎大学医学部医学科臨床神経科学講座精神医学分野、九州大学医学研究院精神病態医学
- 87 双極性障害における脳波マイクロステートと認知制御機能との関係
○谷口 敬太 慶應義塾大学大学院 医学研究科 精神・神経科学教室
- 88 MEG を用いた精神疾患の安静時ネットワークのグラフ理論解析
○武井 雄一 群馬大学大学院医学系研究科神経精神医学教室
- 89 統合失調症における内因性ガンマオシレーションの適応的な調整不全：聴覚注意課題による検討
○光藤 崇子 独立行政法人国立病院機構肥前精神医療センター、日本学術振興会
- 90 脳磁図を用いた自閉スペクトラム症の視線認知メカニズム研究
○佐久間 楓太 新潟大院・自然科学・電気情報工・人間支援科学
- 91 国内における睡眠障害・睡眠ポリグラフデータバンクの構築
○河村 葵 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 睡眠・覚醒障害研究部
- 92 大うつ病性障害患者における治療前後の血中代謝物濃度の変化
○中山 知彦 徳島大学大学院医歯薬学研究部精神医学分野
- 93 自殺者と非自殺死亡者の体内リチウム濃度比較：眼房水解析
○安藤 俊太郎 東京大学、東京都医学総合研究所

- 94 精神症状を伴う抗NMDA受容体脳炎を検出するための非定型精神病診断基準の有用性
○樋之津 健二 岡山大学病院 精神科神経科
- 95 軽度認知障害から認知症への進展に関与する可能性のある口腔内細菌の検討—2年間の縦断研究—
○松原 敏郎 山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座
- 96 認知症における灰白質体積と神経心理検査および髄液アミロイドβの関連性についての検討
○松本 唯 徳島大学病院精神科神経科
- 97 統合失調症における視覚的Salience(顕著性)の異常とその病態生理を検証する数理モデリング
○藤田 芳久 京都大学医学部附属病院 精神科神経科
- 98 統合失調症患者の音周波数変化に対する知覚と生成能力に関する神経生理基盤の解明
○戸張 維 慶應義塾大学医学部精神神経科
- 99 低亜鉛血症を伴う統合失調症の臨床的特徴
○田畑 光一 東京都医学総合研究所・統合失調症プロジェクト、
東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・精神行動医科学分野
- 100 統合失調症患者の努力コスト分析に基づいた意思決定の行動課題に関する研究
○野原 万梨子 北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野精神医学教室
- 101 2型糖尿病の有無によりうつ病ではキヌレニン経路に対するTNF-αの影響修飾が生じる
○岡本 直通 産業医科大学神経精神科
- 102 治療抵抗性うつ病患者における背側前帯状回のGABA及びグルタミン酸濃度の評価 - 横断的1H-MRS研究
○本多 栞 慶應義塾大学 医学部 精神神経科
- 103 職場における労働時間中の皮膚電気活動と自記式評価尺度を用いた評価結果が示すうつ病・ストレスとの関係
○石川 祐希 慶應大院・医・精神・神経科学教室
- 104 成人強迫性障害患者における認知特性のWechsler Adult Intelligent ScaleIIIによる検討
○細井 幸彦 兵庫医科大学 精神科神経科学講座
- 105 睡眠・覚醒相後退障害の治療効果と注意機能の関連
○長尾 賢太郎 国立精神・神経医療研究センター病院 精神診療部、
国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 睡眠・覚醒障害研究部
- 106 神経性やせ症の過食排出行動と終末糖化産物(AGEs)との関連
○森本 佳奈 京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座

- 107 メラトニンはIP3媒介性カルシウム調節を介して自閉スペクトラム症の神経発達を改善する
○董 双山 九州大学歯学研究院小児口腔医学分野
- 108 TRPV4 媒介 Ca²⁺ 調節不全は、AKT/ α -シヌクレイン経路を介してドーパミン作動性ニューロンのミトコンドリア機能不全を引き起こす
○Kong Jun 九州大学大学院歯学研究院小児口腔医学分野
- 109 成人期ADHDにおける不安、抑うつ症状
○富田 秋沙 昭和大学医学部精神医学講座
- 110 短潜時瞬目反射プレパルス抑制
○新垣 愛 愛知県医療療育総合センター発達障害研究所
- 111 視覚サリエンス処理の精神疾患間の比較
○三浦 健一郎 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部
- 112 地域一般高齢男性における睡眠時間の主観－客観乖離と死亡転帰との関連
○内海 智博 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 睡眠・覚醒障害研究部、東京慈恵会医科大学 精神医学講座
- 113 Emotional Blunting がうつ病の重症度や社会機能に与える影響について：国内実態調査の事後解析
○菊地 俊暁 慶應義塾大学医学部 精神・神経科学教室
- 114 統合失調症とうつ病における治療ガイドラインと大規模多施設研究による real-world study
○長谷川 尚美 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 精神疾患病態研究部
- 115 急性期統合失調症に対するパリペリドンパルミテートとパリペリドン徐放錠の比較：系統的レビューとネットワークメタ解析
○岸 太郎 藤田医科大学医学部精神神経科学講座
- 116 性機能障害を伴う大うつ病性障害男性患者に対するホスホジエステラーゼ5阻害薬の有用性：系統的レビューとメタ解析
○佐久間 健二 藤田医科大学医学部精神神経科学講座
- 117 強迫性障害に対する5-HT₃受容体拮抗薬の有用性：系統的レビューとペアワイズメタ解析
○濱中 駿 藤田医科大学医学部 精神神経科学講座
- 118 統合失調症に対するヒスタミンH₃受容体拮抗薬の有用性：系統的レビューとメタ解析
○西井 保文 藤田医科大学病院
- 119 マインドフルネス瞑想を取り入れた作業療法によるうつ病および不安症患者のリカバリー尺度の変化と脳機能への影響
○山本 敦子 関西医科大学総合医療センター 精神神経科、関西医科大学医学部 精神神経科学講座

- 120 スマートフォンで閾値下うつを探知可能なデジタルバイオマーカーの開発
○清水 あやか 広島大学大学院 医系科学研究科 精神神経医科学
- 121 成人期ADHDにおけるemotional dysregulation
○中井 文香 昭和大学医学部精神医学講座
- 122 アイトラッカーを用いた発達障害における共同注意の研究
○山内 美聡 昭和大学医学部精神医学講座
- 123 うつ病における食行動変化の強化学習モデリング
○内田 裕輝 NCNP・疾病研究第七部、東京医科歯科大・医歯学総合研究科
- 124 脳動静脈奇形の出血後に注意欠如多動性症状を呈した1例
○大野 由佳 名古屋大学医学部附属病院精神科

学会資料集

年会一覽

役員一覽

会則

日本生物学的精神医学会 年会一覽

開催回	歴代会長	開催地	開催日	備考
第1回	稲永 和豊	久留米	1979年3月8日～9日	
第2回	大月 三郎	岡山	1980年3月28日～29日	
第3回	福田 哲雄	京都	1981年10月23日～24日	
第4回	中澤 恒幸	名古屋	1982年6月4日～5日	
第5回	鳩谷 龍	津	1983年3月25日～26日	
第6回	島藺 安雄	東京	1984年3月23日～24日	
第7回	難波 益之	岐阜	1985年4月12日	開催中止
第8回	山口 成良	金沢	1986年3月27日～28日	
第9回	山下 格	札幌	1987年5月8日～9日	
第10回	中嶋 照夫	京都	1988年3月25日～26日	
第11回	大熊 輝雄	東京	1988年3月24日～25日	
第12回	高橋 三郎	大津	1990年3月29日～30日	
第13回	町山 幸輝	前橋	1991年3月28日～29日	
第14回	松本 啓	鹿児島	1992年3月26日～28日	
第15回	融 道男	東京	1993年3月17日～19日	
第16回	三好 功峰	神戸	1994年3月23日～25日	
第17回	十束 支朗	山形	1995年3月30日～4月1日	
第18回	堺 俊明	大阪	1996年3月27日～29日	
第19回	齋藤 正巳	大阪	1997年3月26日～28日	
第20回	阿部 和彦	北九州	1998年3月26日～28日	
第21回	佐藤 光源	仙台	1999年4月21日～23日	
第22回	鈴木 二郎	東京	2000年3月30日～4月1日	
第23回	中根 允文	長崎	2001年4月11日～13日	
第24回	山内 俊雄	さいたま	2002年4月10日～12日	
第25回	越野 好文	金沢	2003年4月16日～18日	
第26回	高橋 清久	東京	2004年7月21日～23日	JSNPと合同
第27回	武田 雅俊	大阪	2005年7月6日～8日	JSNPと合同
第28回	岡崎 祐士	名古屋	2006年9月14日～16日	JSNPと合同
第29回	小山 司	札幌	2007年7月11日～13日	JSNPと合同
第30回	倉知 正佳	富山	2008年9月14日～16日	アジア太平洋BPと合同
第31回	林 拓二	名古屋	2009年4月23日～25日	
第32回	中村 純	北九州	2010年10月7日～9日	アルコール・薬物関連学会合同学術総会と同時開催
第33回	加藤 進昌	東京	2011年5月21日～22日	
第34回	米田 博	神戸	2012年9月28日～30日	JS/APS Neurochemistryと同時開催
第35回	尾崎 紀夫	京都	2013年6月23日～27日	WFSBP2013と合同開催
第36回	西川 徹	奈良	2014年9月29日～10月1日	JSNと合同
第37回	中込 和幸	東京	2015年9月24日～26日	JSNPと合同
第38回	渡辺 義文	福岡	2016年9月8日～10日	JSNと合同
第39回	久住 一郎	札幌	2017年9月28日～30日	JSNPと合同
第40回	神庭 重信	神戸	2018年9月6日～8日	JSNと合同
第41回	岸本 年史	新潟	2019年6月22日～23日	
第42回	吉川 武男	宮城	2020年8月21日～23日	JSNP・JSPPと合同
第43回	功刀 浩	京都	2021年7月14日～16日	JSNPと合同
第44回	加藤 忠史	東京	2022年11月4日～6日	CNP・NP・PPと合同

役員一覧

役員一覧

理事長	加藤 忠史	順天堂大学大学院医学研究科精神・行動科学
副理事長	岩本 和也	熊本大学大学院生命科学研究部分子脳科学分野
理事	久住 一郎	北海道大学大学院医学研究科神経病態学講座精神医学分野
	中込 和幸	国立精神・神経医療研究センター
	橋本 亮太	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所精神疾患病態研究部
	山末 英典	浜松医科大学医学部精神医学講座
	池田 匡志	名古屋大学大学院医学系研究科精神医学
	上野 修一	愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座
	笠井 清登	東京大学医学部附属病院精神神経科
	高橋 努	富山大学学術研究部医学系神経精神医学講座
	高橋 英彦	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科精神行動医科学
	竹林 実	熊本大学大学院生命科学研究部神経精神医学講座
	中尾 智博	九州大学大学院医学研究院精神病態医学
	中川 伸	山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座
	牧之段 学	奈良県立医科大学医学部精神医学講座
	三島 和夫	秋田大学大学院医学系研究科医学専攻病態制御医学系精神科学講座
監事	菱本 明豊	神戸大学大学院医学研究科精神医学分野
	林 朗子	理化学研究所脳神経科学研究センター多階層精神疾患研究チーム

会 則

日本生物学的精神医学会会則

第1章 総 則

(名称)

第1条 本会は、日本生物学的精神医学会と称し、英文では、Japanese Society of Biological Psychiatryと表記する。

(事務所)

第2条 本会は、主たる事務所を東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル（株）毎日学術フォーラム内に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 本会は、精神医学領域において、生物学的研究を推進することにより、精神医学の発展ならびに精神医療の充実に寄与すること、また、生物学的精神医学会世界連合（以下、WFSBPという。）において、本邦を代表する機関として活動することを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 学術講演会、研究会等の開催
 - (2) 機関誌、学術図書等の発行
 - (3) 研究及び調査の実施
 - (4) 関係学術団体との連絡及び協力
 - (5) 関係行政機関との連絡及び協力
 - (6) その他目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業については、本邦及び海外において行うものとする。

第3章 会員

(本会の構成員)

第5条 本会に次の会員を置く。

- (1) 正会員
生物学的精神医学に関する知識、経験を有する者で、本会の目的に賛同して入会した個人
 - (2) 学生・若手会員
生物学的精神医学に関心を有する者で、本会の目的に賛同して入会した、大学あるいは大学院に学生として在籍する個人または大学の学部卒業後5年以内の個人
 - (3) 名誉会員
本会に対し功労のあった者で、理事会の決議を経て推戴された個人
 - (4) 賛助会員
本会の目的に賛同してその事業を援助する個人、法人または団体
- 2 本会に正会員のうちより評議員を置き、これをもって評議員会の構成員とする。

- 3 評議員の選出方法等については、評議員会の決議を経て別に定める規則による。
- 4 正会員及び学生・若手会員は、本会の年次学術集会において、筆頭者として研究の成果を発表することができる。
- 5 正会員、学生・若手会員及び名誉会員は、本会を通じた届出により、WFSBPの会員となることができる。

(会員の資格の取得)

- 第6条 正会員、学生・若手会員または賛助会員として本会に入会しようとする者は、理事会の決議を経て別に定める入会手続を行うものとする。
- 2 前項の規定にかかわらず、名誉会員に推戴された者は、入会手続きを要さず、本人の承諾をもって名誉会員となるものとする。

(会費)

- 第7条 会員は、評議員会の決議を経て別に定める会費を納入しなければならない。
- 2 名誉会員は、会費を納めることを要しない。
 - 3 既納の会費は、いかなる事由があっても返還しない。

(退会)

- 第8条 会員は、理事会において別に定める退会届を提出することにより、任意にいつでも退会することができる。

(除名)

- 第9条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、評議員会の決議によって当該会員を除名することができる。
- (1) 日本国の法律またはこの会則その他本会の規則に違反したとき
 - (2) 本会の名誉を傷つけ、または目的に反する行為をしたとき
 - (3) その他除名すべき正当な事由があるとき
- 2 前項の規定により会員を除名しようとするときは、理事会の決議を経て当該会員に除名の決議を行う評議員会の一週間前までに通知するとともに、評議員会において当該会員に弁明の機会を与えなければならない。

(会員資格の喪失)

- 第10条 前2条の他、会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。
- (1) 会費を2年以上滞納し、かつ、理事会の承認があったとき
 - (2) 当該会員が死亡し、または解散したとき

第4章 評議員会

(構成)

- 第11条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

(権限)

- 第12条 評議員会は、次の事項について決議する。
- (1) 会員の除名
 - (2) 理事及び監事の選任または解任
 - (3) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認
 - (4) 会則の変更
 - (5) 解散及び残余財産の処分
 - (6) その他評議員会で決議するものとしてこの会則で定められた事項

(開催)

第13条 評議員会は、定時評議員会及び臨時評議員会とし、定時評議員会は毎年度一回開催する他、理事長が必要と認めたときは、臨時総会を開催することができる。

(招集)

第14条 評議員会は、理事長が招集する。
2 総評議員の議決権の5分の1以上の議決権を有する評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(議長)

第15条 評議員会の議長は、理事長がこれにあたる。

(議決権)

第16条 評議員会における議決権は、評議員1名につき1個とする。

(決議)

第17条 評議員会の決議は、総評議員の議決権の3分の1を有する評議員が出席し、出席した当該評議員の議決権の過半数をもって行う。ただし、当該議事につき文書をもってあらかじめ意思を表示した者及び出席する他の評議員に文書をもって表決を委任した者は、出席者とみなす。

(議事録)

第18条 評議員会の議事については、議事録を作成する。

第5章 役員

(役員の設定)

第19条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 理事 10名以上16名以内
- (2) 監事 2名以内
- 2 理事のうち1名を理事長とする。
- 3 理事長を除くその他の理事のうち、1名を副理事長とすることができる。

(役員を選任)

第20条 役員は、評議員の中から評議員会の決議によって選任する。

- 2 理事長及び副理事長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。
- 3 理事及び監事は、相互に兼ねることができない。
- 4 各理事について、当該理事及びその配偶者または三親等内の親族その他特別の関係がある者である理事の合計数が、理事の総数の3分の1を越えてはならない。監事についても同様とする。

(理事の職務及び権限)

第21条 理事は、理事会を構成し、この会則で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、本会を代表し、その業務を執行する。副理事長は理事長を補佐し、本会の業務を分担執行する。
- 3 理事長に事故あるとき、または理事長が欠けたときは、副理事長がその業務にかかる執行を代行する。

(監事の職務及び権限)

第22条 監事は、理事の職務の執行を監査し、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、本会の業務及び財産の状況の調査をする

ことができる。

(役員任期)

- 第23条 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する評議員会の終結の時までとする。
- 2 前項の規定にかかわらず、任期の満了前に退任した理事及び監事の補欠として選任された役員の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
 - 3 理事及び監事は、2期まで再任することができる。ただし、その任期の2期目で理事長に選定された理事は、3期まで再任することができる。
 - 4 理事及び監事は、第19条に定める定員を欠くに至った場合には、任期の満了または辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事または監事としての職務を行う権利義務を有する。

(役員解任)

- 第24条 役員は、評議員会の決議によって解任することができる。

(報酬等)

- 第25条 理事及び監事は、無報酬とする。
- 2 役員には、その職務を行うために要する費用を弁償することができる。

(役員責任免除)

- 第26条 本会は一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という。）第111条第1項に規定する損害賠償責任について、役員等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がない場合において、責任の原因となった事実の内容、その役員等の職務執行の状況その他の事情を勘案し、特に必要と認めるときは、法令に定める最低責任限度額を控除して得た金額を限度として、理事会の決議によって免除することができる。

第6章 理事会

(役員任期)

- 第27条 本会に理事会を置く。
- 2 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

- 第28条 理事会は、次の職務を行う。
- (1) 本会の業務執行の決定
 - (2) 理事の職務の執行の監督
 - (3) 理事長及び副理事長の選定及び解職
 - (4) その他本会の組織及び運営に関する重要事項

(招集)

- 第29条 理事会は、理事長が招集する。
- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

(理事会の議長)

- 第30条 理事会の議長は、理事長がこれにあたる。

(決議)

- 第31条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
- 2 前項の決議には、議長は加わることができない。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。
 - 3 第1項の規定にかかわらず、法人法第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

- 第32条 理事会の議事については、議事録を作成する。

(オブザーバー)

- 第33条 理事会に、次のオブザーバーを置く。
- (1) WFSBPにおいて本会を代表する者
 - (2) 役員外より選定された年次学術集会の会長
 - (3) その他、理事会が特に必要と認めた者
- 2 オブザーバーは、理事会に出席し意見を述べることができる。ただし、決議に加わることはできない。

(委員会)

- 第34条 理事会は、本会の事業を円滑に遂行するため、理事会の下に委員会を設けることができる。

第7章 資産及び会計

(事業年度)

- 第35条 本会の事業年度は、毎年1月1日に始まり、12月31日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

- 第36条 本会の事業計画書、収支予算書については、毎事業年度の開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の決議に基づき、予算成立の日まで前年度の予算に準じ収入及び支出をすることができる。
 - 3 前項の収入及び支出は、新たに成立した予算の収入及び支出とみなす。

(事業報告及び決算)

- 第37条 本会の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。
- (1) 事業報告
 - (2) 事業報告の附属明細書
 - (3) 貸借対照表
 - (4) 損益計算書（正味財産増減計算書）
 - (5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書
- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号及び第4号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については承認を受けなければならない。
 - 3 第1項の書類のほか、監査報告の書類を主たる事務所に5年間備え置くとともに、会則及び会員名簿を主たる事務所に備え置くものとする。

第8章 会則の変更ならびに解散

(会則の変更)

第38条 この会則は、評議員会の決議によって変更することができる。

(解散)

第39条 本会は、評議員会の決議により解散する。

(余剰金の分配)

第40条 本会は、余剰金の分配を行うことができない。

(残余財産の帰属)

第41条 本会が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人または国もしくは地方公共団体に贈与するものとする。

第9章 公告の方法

(公告の方法)

第42条 本会の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

【附則】

1. この会則は1987年5月9日から施行する。
2. この会則は1999年4月22日から改正する。
3. この会則は2003年4月17日から改正する。
4. この会則は2006年9月14日から改正する。
5. この会則は2010年10月7日から改正する。
6. この会則は2012年9月28日から改正する。
7. この会則は2014年9月29日から改正する。
8. この会則は2021年7月14日から改正する。

【補則】

1. 会費の額は次のとおりとし、毎事業年度の初めに納入するものとする。ただし、学生・若手会員において、入会初年度の機関誌の配布を希望しない者については、入会初年度に限りその会費を免除することができる。

正会員 10,000円（評議員：11,000円）

学生・若手会員 5,000円

賛助会員 一口100,000円

2. 本会を通してWFSBPに入会した者は、前条に定める会費の他に1,000円を納入するものとする。

協賛団体一覧

【共催セミナー】

MSD株式会社

大塚製薬株式会社

住友ファーマ株式会社

武田薬品工業株式会社

武田薬品工業株式会社/ルンドベック・ジャパン株式会社

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

ヴィアトリス製薬株式会社

Meiji Seikaファルマ株式会社

ヤンセンファーマ株式会社

【バナー広告】

ルンドベック・ジャパン株式会社

住友ファーマ株式会社

エーザイ株式会社

塩野義製薬株式会社

【企業展示】

帝人ファーマ株式会社

【ネックストラップ広告】

ルンドベック・ジャパン株式会社